User Guide

For your safety and comfort

NX350 / NX250

笑顔になれるような移動の体験を、このお車とともに。
私たち一人一人のこの想いは、いつの時代も変わることはありません。

「人々を安全・安心に運び、心までも動かす」

お客様の安全・安心が私たちの最優先事項です。
ドライバーであるお客様のご理解と行動に、本書がお役に立つことができれば幸いです。

User Guideについて

この User Guide には、基本的な操作、万一の場合に必要な情報、安全に関する情報などを抜粋して記載しています。

安全・安心に運転いただくために、乗車前に必ずお読みください。
また、運転時はいつでも確認できるよう、車内に保管しておくことをおすすめします。

詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。
デジタル取扱説明書には最新の情報を掲載しています。
https://manual.lexus.jp/nx/2110/cv/ja_JP/contents/home.php

User Guide は従来の取扱説明書に比べ大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴う CO2 排出量の低減が見込まれます。
持続可能な社会を構築するために
レクサスはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

第 1 章 Starter Guide

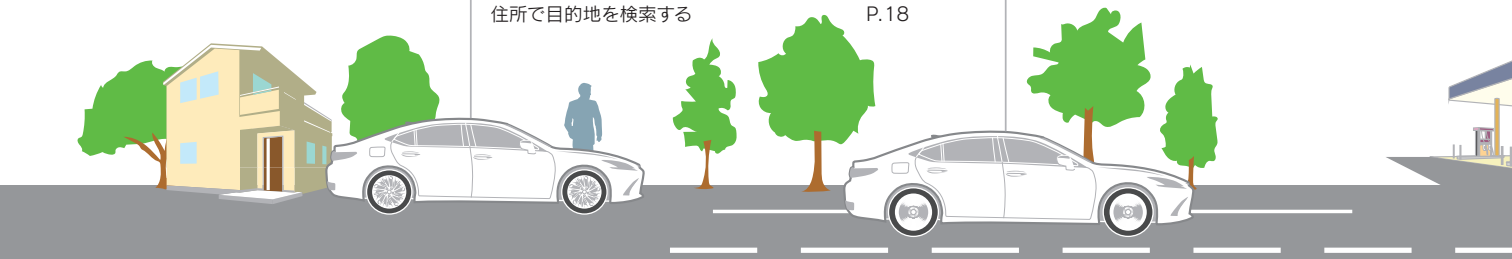
スターターガイド

出発前に準備すること

ドアをロック／ロック解除する P.8
ドアを開ける P.9
バックドアを開閉する P.10
正しい運転姿勢をとる※
フロントシートを調整する P.11
ヘッドレストの調整 P.11
ハンドルの上下／前後位置を調整する P.12
インナーミラーの位置を調整する P.12
ドアミラーの角度を調整する P.13
ドアミラーを格納する／もどす P.14
窓を開ける／閉める P.15
エンジンを始動する P.16
車内の温度を調整する※
オーディオのソースを変更する P.17
Bluetooth®機器をマルチメディアシステムから登録する P.17
目的地検索について P.18
住所で目的地を検索する P.18

走行中の操作

シフトポジションを切りかえる P.19
パーキングブレーキを手動でかける／解除する P.21
パーキングブレーキを自動でかける／解除する P.21
右左折や車線変更するときの操作 P.22
ヘッドランプをつける P.23
ランプをハイビームにする P.24
フロントワイパーを使う P.25
ワイパーの速度の切りかえ P.26
フロントウォッシャーを使う P.26



給油のしかた

給油する P.27

トラブルに対応する

警告灯がついたときは P.7
タイヤパンク応急修理キットでの補修方法 P.28
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する P.29
電子キーが正常に働かない状態でエンジンを始動する P.31
ドア開スイッチでドアを開けることができない P.32

高速道路を走行するとき

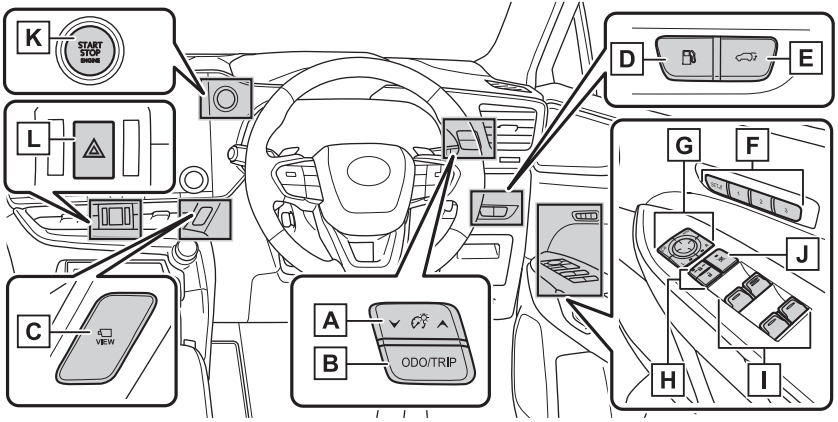
車線内中央の走行維持や車線変更のハンドル操作を支援する※
車線からのはみ出しを警告で防ぐ※
最適な車間距離を保って追従走行する※

目的地に到着したら

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる※
パーキングブレーキを手動でかける／解除する P.21
パーキングブレーキを自動でかける／解除する P.21
エンジンを停止する P.16
ドアを開ける P.9
ドアをロック／ロック解除する P.8

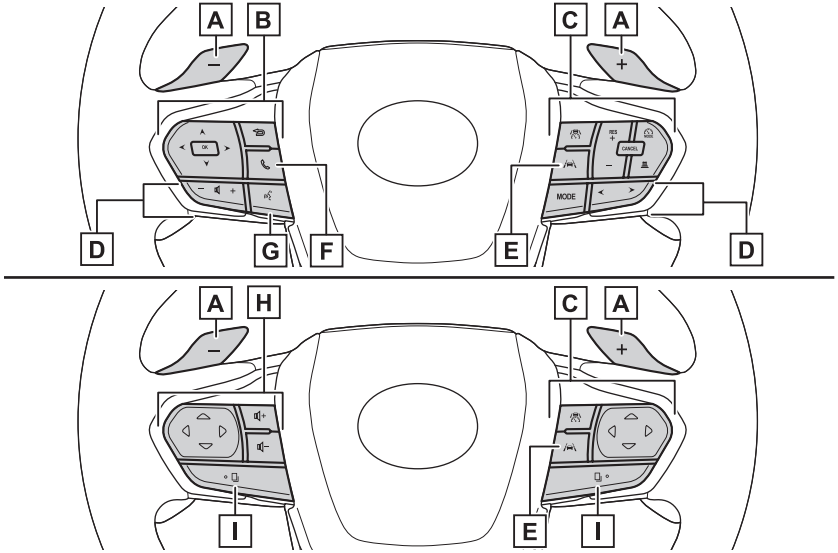
※：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

運転席まわりスイッチ



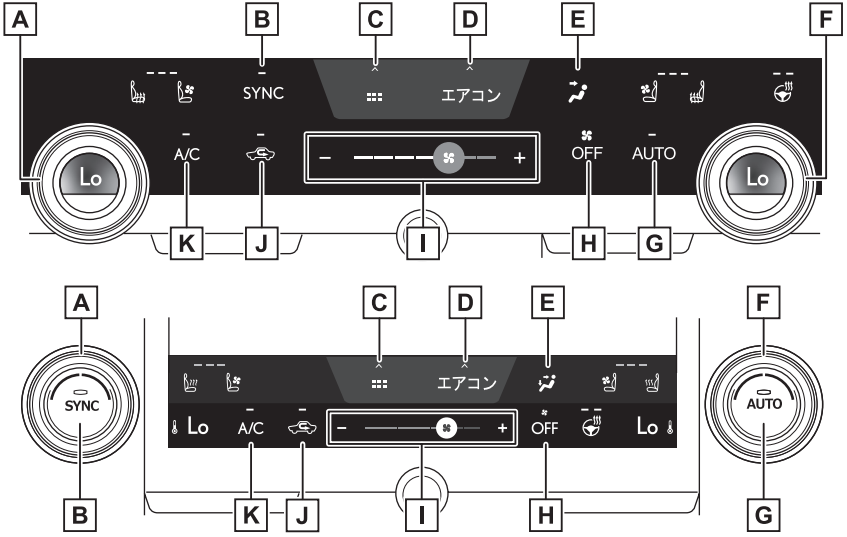
A インストルメントパネル照度調整スイッチ※
B [ODO TRIP]スイッチ※
C カメラスイッチ※
D 給油扉オープナースイッチ
E パワーバックドアスイッチ
F ポジションメモリースイッチ★※
G ドアミラースイッチ
H ドアロックスイッチ※
I パワーウインドウスイッチ
J ウインドウロックスイッチ※
K エンジンスイッチ
L 非常点滅灯スイッチ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



- A パドルシフトスイッチ※
- B メーター操作スイッチ※
- C クルーズコントロールスイッチ※
  レーダークルーズコントロール※
- D オーディオ操作スイッチ※
- E LTA（レーントレーシングアシスト）
  スイッチ※
- F 電話スイッチ※
- G トークスイッチ※
- H オーディオ操作スイッチ／
  電話スイッチ／トークスイッチ※
- I 機能切りかえスイッチ※

※：WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。



A 助手席側温度調整スイッチ※

B [SYNC]スイッチ※

C ショートカット画面表示スイッチ※
いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。

D エアコンオプション画面表示スイッチ※

E 吹き出し口切りかえスイッチ※

F 運転席側温度調整スイッチ※

G [AUTO]スイッチ※

H [OFF]スイッチ※

I 風量調整スイッチ※

J 内外気切りかえスイッチ※

K [A/C]スイッチ※

※:WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。

■ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

（赤色）

■ ただちに安全な場所に停車し、WEB 掲載のデジタル取扱説明書に従って対処してください。

（点滅）（点滅／点灯）（橙色）（点滅）（点滅）

■ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

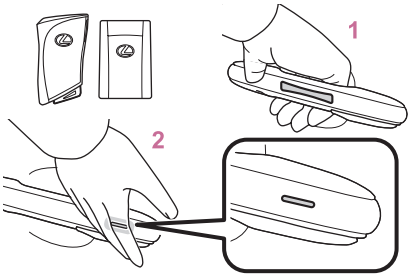
（黄色）（赤色）（黄色）（点滅）（点滅）

■ シートベルトを着用してください。

■ 燃料を補給してください。

ドアの開閉

ドアをロック／ロック解除する

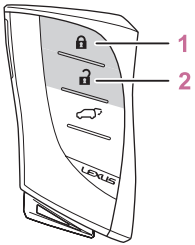


■ スマートエントリー＆スタートシステムでドアをロック／ロック解除する

必ず運転者が電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯してください。

1 ハンドルを握ってロック解除します。
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。
ロック操作後3秒間はロック解除できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれロックしてください。
必ずロックされたことを確認してください。
ロックするとオートアラームが設定されます。



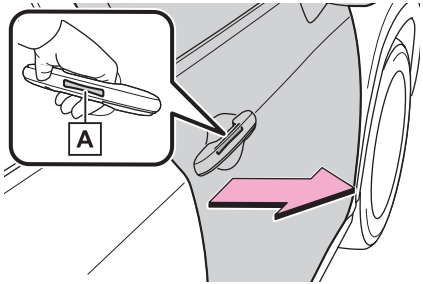
■ ワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除する

1 全ドアをロックします。
必ずロックされたことを確認してください。

2 全ドアをロック解除します。

ドアを開ける

▶ 車外



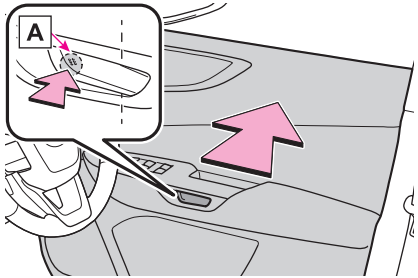
ドアがロックされているとき:

電子キーを携帯して、ドアハンドルのドア開スイッチ A を押しながらドアを開きます。
電子キーが検知エリア内にある状態で、ドアハンドル裏面のドア開スイッチ A を確実に押してください。

ドアがロック解除されているとき:

ドアハンドルのドア開スイッチ A を押してドアを開きます。
ドアハンドル裏面のドア開スイッチ A を確実に押してください。

▶ 車内



運転席ドア:

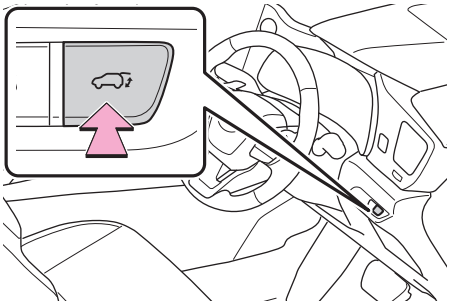
ドアがロックになっていても、ドア開スイッチ A の前側を押すとドアが開きます。
ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

運転席以外のドア:

ドアロックスイッチを押してロック解除し、ドア開スイッチ A の前側を押すとドアが開きます。
ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

バックドアを開ける/閉める

バックドアを開閉する

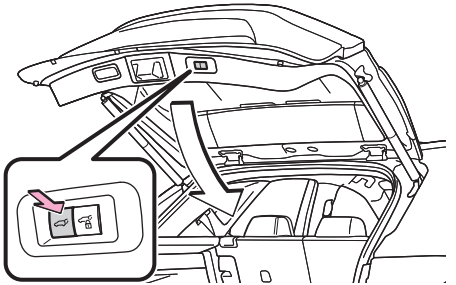


車内のスイッチでバックドアを開ける／閉める

を約1秒押し続けます。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で開閉します。

開閉の作動中にを押すと、開閉の作動を停止します。
開閉の作動を停止した状態から再度、を押すと、バックドアは反転作動します。



バックドアスイッチでバックドアを開ける／閉める

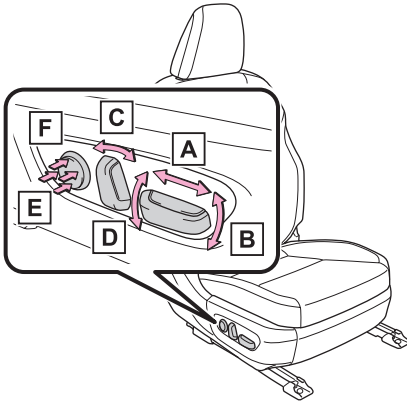
を押します。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でを押すと、作動を停止します。
再度を押すと、バックドアは自動で開きます。

シートを調整する

フロントシートを調整する



正しい姿勢がとれるように、シートの前後／上下位置などの調整をしてください。

A 前後位置の調整

B クッション前端の上下調整

C リクライニング調整

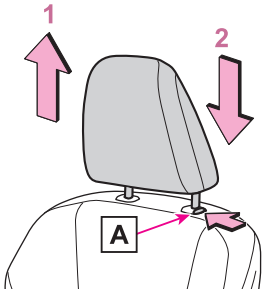
D シート全体の上下調整

E 腰部硬さ調整（運転席のみ）

F 腰部高さ調整（運転席のみ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストの調整



ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

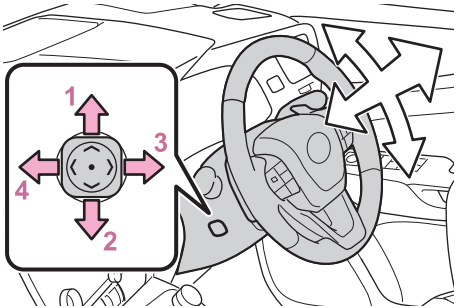
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する



スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ

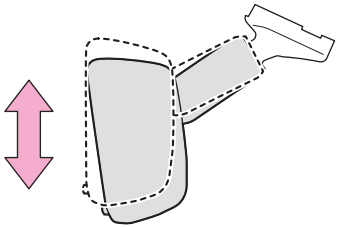
2 下方へ

3 手前へ

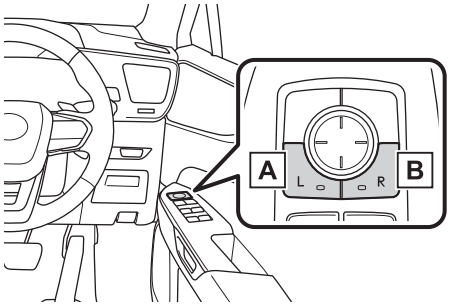
4 前方へ

インナーミラーの位置を調整する

インナーミラー本体を持って、上下に調整します。



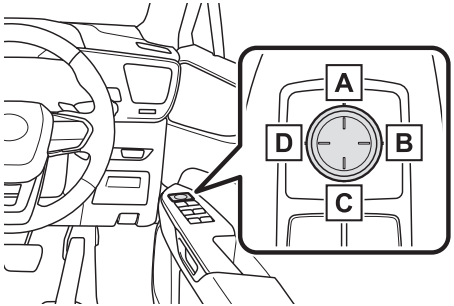
ドアミラーの角度を調整する



1 調整するミラーを選択します。

A 左側ミラー選択

B 右側ミラー選択



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押します。

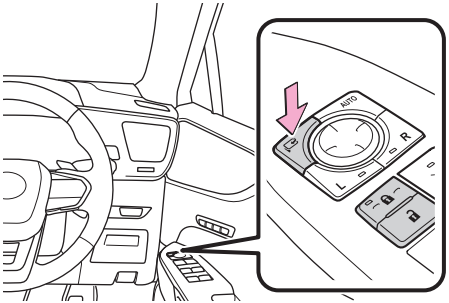
A 鏡面を上に調整

B 鏡面を右に調整

C 鏡面を下に調整

D 鏡面を左に調整

ドアミラーを格納する／もどす

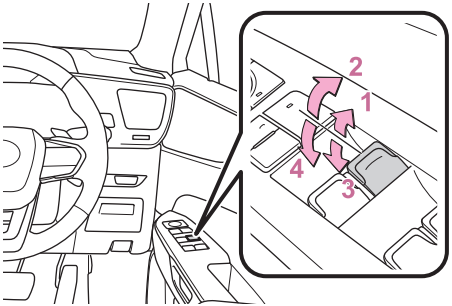


■ マニュアル作動での格納／復帰

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

窓を開ける／閉める



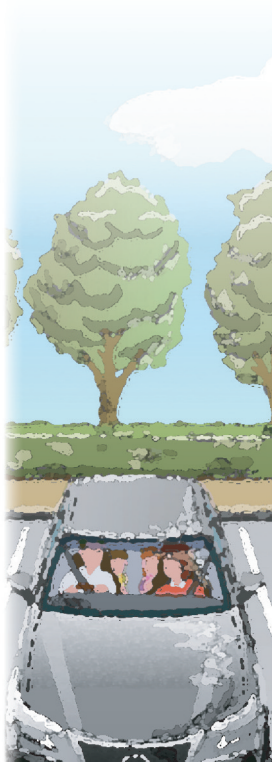
1 パワーウインドウスイッチを途中まで上げます。
スイッチを上げているあいだ、窓ガラスが閉まります。

2 パワーウインドウスイッチを完全に上げます。
自動で窓ガラスが閉まります。
途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

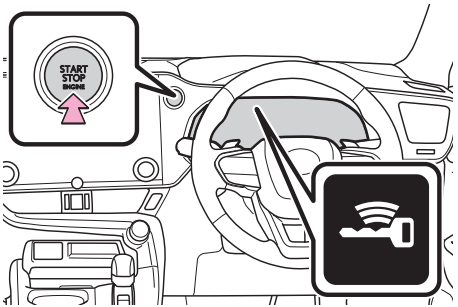
3 パワーウインドウスイッチを途中まで押します。
スイッチを押しているあいだ、窓ガラスが開きます。

4 パワーウインドウスイッチを完全に押します。
自動で窓ガラスが開きます。
途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

エンジンの始動と停止



エンジンを始動する



1 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
2 ブレーキペダルをしっかり踏みます。
3 エンジンスイッチを短く確実に押します。

エンジンを停止する

1 車両を完全に停止させます。
2 P ポジションスイッチを押します。
3 エンジンスイッチを押します。
4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認します。

音楽を再生する

オーディオのソースを変更する

ラジオやUSB などの中から、ソースを選択できます。

1 メインメニューの ♫ にタッチします。

2 [オーディオ選択]にタッチします。

3 希望のソースにタッチします。

Bluetooth®機器をマルチメディアシステムから登録する

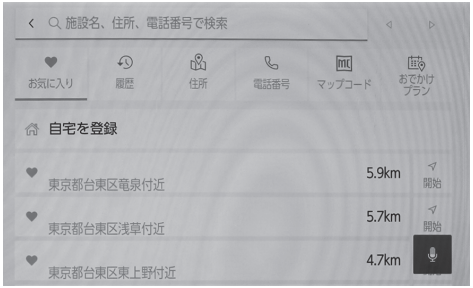
ハンズフリー電話やBluetooth®オーディオを使用するためには、携帯電話／ポータブル機をマルチメディアシステムに登録する必要があります。登録完了後は、マルチメディアシステムを起動するたびに自動でBluetooth®接続されます。

Apple CarPlay/Android Autoを接続したときは、自動的に機器登録されます。

Bluetooth®機器が1台も接続されていない場合、ステアリングスイッチの スイッチを長押しすることでも登録画面を表示できます。

目的地を検索する

目的地検索について



目的地検索画面から目的地を検索し、設定できます。

1 地図画面上の 🔍 にタッチします。

2 目的地検索画面が表示されます。
目的地の検索方法にタッチします。

3 検索結果リスト画面が表示されます。
リストから目的地に設定したい項目にタッチします。

- すでに目的地が設定されているときは、[新規目的地]（新しく目的地を設定）、または[経由地追加]にタッチします。
- コネクティッドナビ利用時はクラウド上のコンテンツを活用した目的地検索を行うこともできます。

住所で目的地を検索する

1 地図画面上の 🔍 にタッチして、目的地検索画面を表示します。

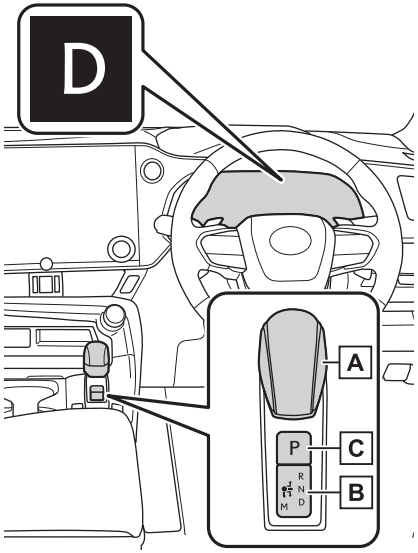
2 [住所] にタッチします。

3 都道府県名・市区町村名・町名・丁目（字）の順にタッチします。
[〇〇主要部] にタッチすると、広域図が表示されます。

4 [番地指定] をタッチします。

5 [検索] にタッチします。

シフトポジションを切りかえる



■ シフトポジションの切りかえ方法と表示

A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置(●)にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D·M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

■ シフトポジションの使用目的

目的に応じたシフトポジションを選択してください。

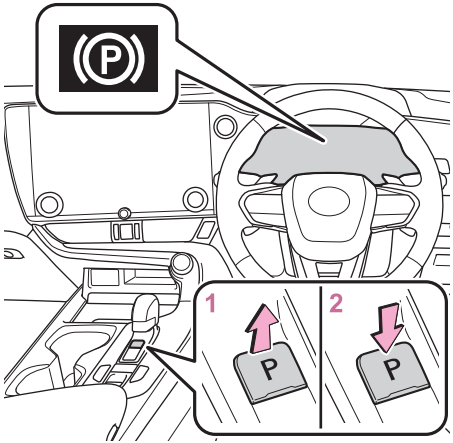
シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
M	Mモード走行

■ Pから他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- Pから直接、シフトポジションをSに切りかえることはできません。

駐車する

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。
パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除します。
- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。

パーキングブレーキ自動解除機能

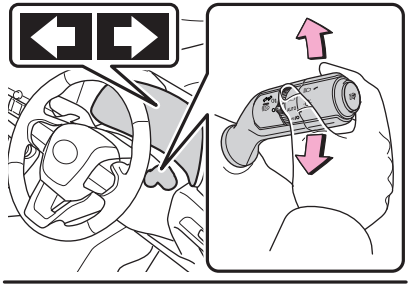
解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

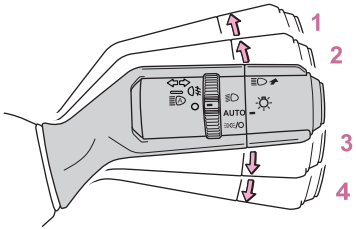
パーキングブレーキを自動でかける／解除する（オートモード）

停車中に、「EPBシフト連動機能ON」が表示されるまでパーキングブレーキスイッチを引き続けます。
オートモードをONにすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にしたとき：
  パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにしたとき：
  パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

右左折や車線変更するときの操作





1 1の位置までレバーを傾けます。
左側方向指示灯が点滅します。

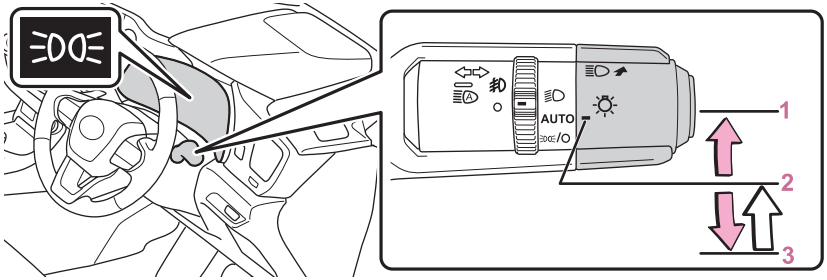
2 2の位置までレバーを傾け、離します。
左側方向指示灯が5回点滅します。

3 3の位置までレバーを傾け、離します。
右側方向指示灯が5回点滅します。

4 4の位置までレバーを傾けます。
右側方向指示灯が点滅します。

ヘッドランプを使う

ヘッドランプをつける



1 ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

2 AUTO*2 周囲が明るいとき：LED デイタイムランニングランプが点灯します。
周囲が暗いとき：ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

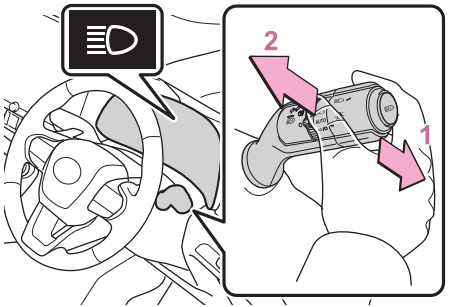
3 /O*2 周囲が明るいとき：スモールランプ*1 が点灯します。
周囲が暗いとき：スモールランプ*1*3 が点灯します。
スイッチを3 /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に2 AUTOの位置へ戻ります。

*1 ： スモールランプは、車幅灯／尾灯／インストルメントパネルランプを意味します。

*2 ： 操作するたびに、2 AUTOによる点灯状態と3 /Oによる点灯状態が切りかわります。

*3 ： 停車中のみ点灯可能です。車両を発進させると2 AUTOによる点灯状態に切りかわります。

ランプをハイビームにする

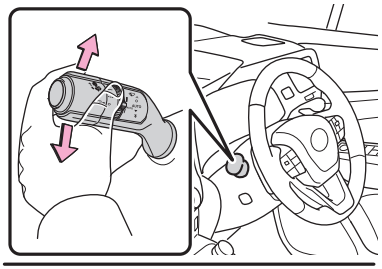


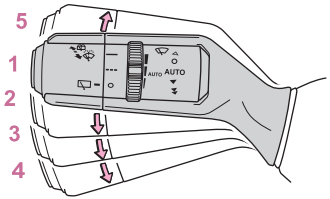
1 ランプが点灯した状態で、レバー前方に倒します。
ハイビームに切りかわります。
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを手前に引きます。
レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯します。
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

雨の日の視界を確保する

フロントワイパーを使う





次のように レバーを操作すると、ワイパーが作動します。

1 ○ 停止

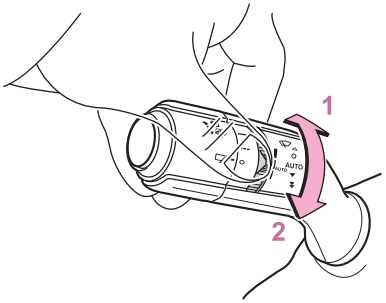
2 AUTO AUTO モード
雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

5 △ 一時作動

ワイパーの速度の切りかえ

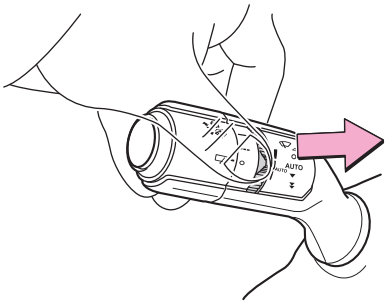


AUTO が選択されているときは、ツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

1 雨滴センサーの感度調整（高）

2 雨滴センサーの感度調整（低）

フロントウォッシャーを使う

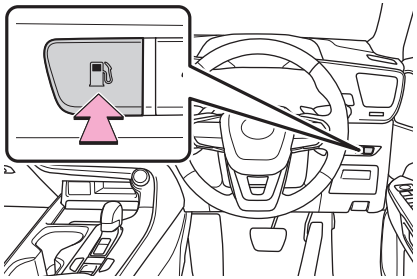


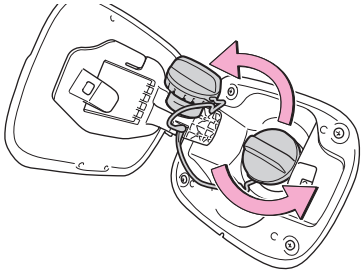
レバーを手前に引きます。

ワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

給油する





1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開けます。

2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込みます。

■ 燃料の種類

NX350：
- 無鉛プレミアムガソリン
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

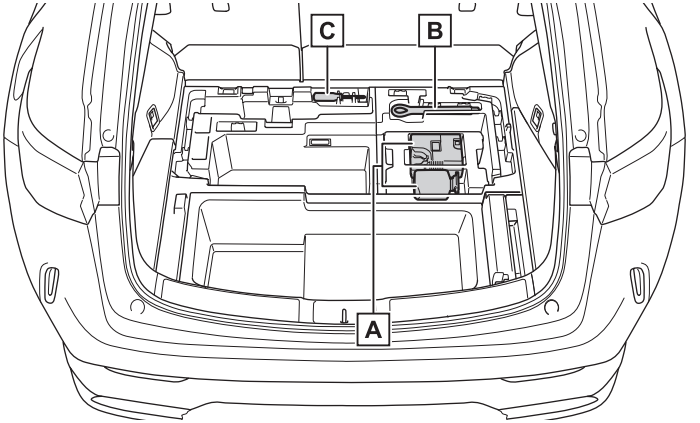
NX250：
- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリン

エタノールの混合率10%以下、またはETBE の混合率22%以下のガソリン（酸素含有率3.7%以下）を使用することができます。

各対処法の手順や注意事項等については、WEB 掲載のデジタル取扱説明書をお読みください。

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車）

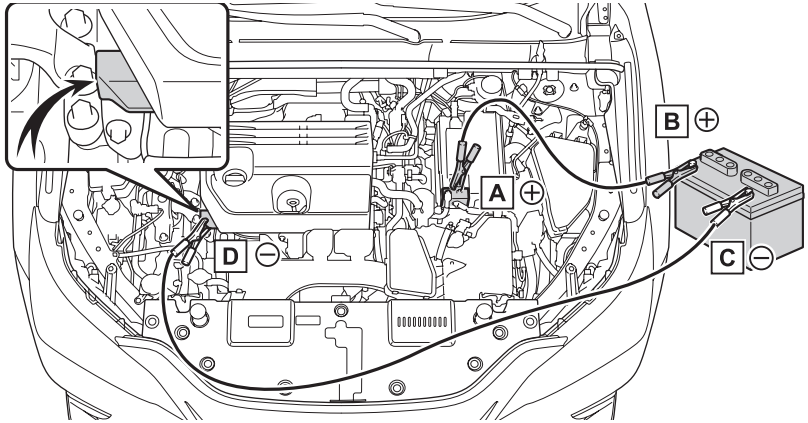


パンク修理に必要な工具類は車に搭載されています。

A タイヤパンク修理キット
B けん引フック
C ドライバー

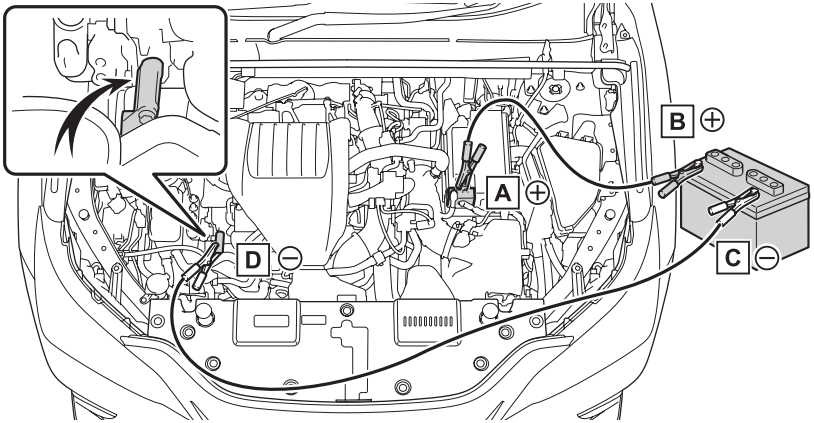
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する

▶ NX250



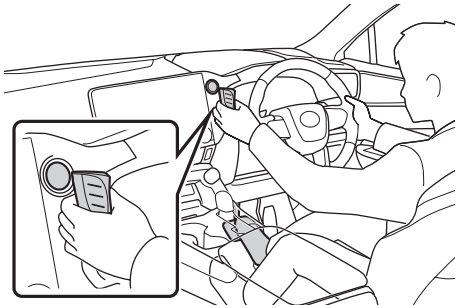
A バッテリーの＋端子（自車）
B バッテリーの＋端子（救援車）
C バッテリーの－端子（救援車）
D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

▶ NX350



A バッテリーの＋端子（自車）
B バッテリーの＋端子（救援車）
C バッテリーの－端子（救援車）
D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

電子キーが正常に働かない状態でエンジンを始動する



1 シフトポジションがPの状態でブレーキペダルを踏みます。

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれます。

電子キーを認識するとブザーが鳴り、パワースイッチのモードがONへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、エンジンスイッチのモードがACCへ切りかわります。

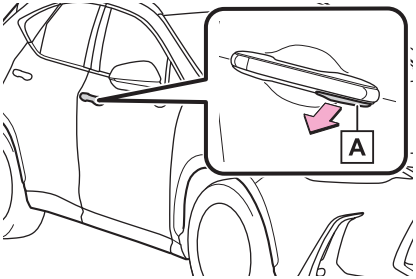
3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認します。

4 エンジンスイッチを押します。

上記の処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

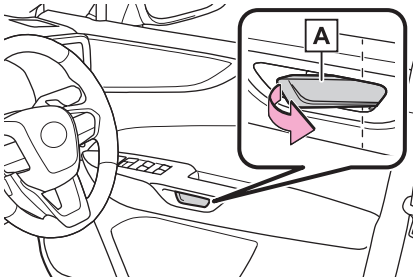
ドア開スイッチでドアを開けることができない

▶ 車外



手動リリースハンドルAを手前に引いてドアを開きます。
通常、手動リリースハンドルではドアを開けることができません。
ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。※

▶ 車内



手動リリースハンドルAを手前に2回引いてドアを開きます。
1回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアをが開きます。

※:WEB掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

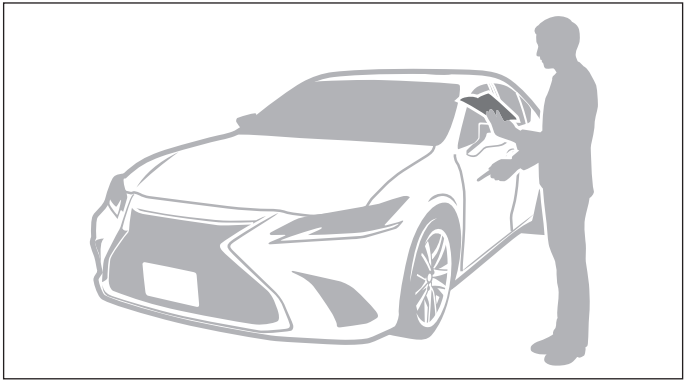
第 2 章 Safety Guide
セイフティーガイド

車の点検整備のお願い 34
ドア／窓に挟み込まれないために 36
フロアマットの状態確認 38
シートベルトを正しく着用するために 39
子どもを車に乗せるときは 41
SRSエアバッグの効果を最大限発揮するために 46
荷物を積み込むときは 49
事故を起こさないために 51
天候や路面状況に応じた運転 52
天候や路面状況に応じた駐停車 55
Lexus Safety System +等の運転支援装置を使用するときは 56
車両を緊急停止させるときは 57
車両が故障したときは 58
電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響 60

本章は代表的な車種をもとに説明しています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。

車の点検整備のお願い

車両の点検／整備



エンジンをかける前に、日常点検を実施してください。日常点検で異状を見つけたときは、販売店へご連絡ください。
点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

日常点検の点検項目

■ エンジンルーム内

各液量を確認してください。

- ブレーキフルード
- 冷却水
- エンジンオイル
- バッテリー液
- ウォッシャー液

■ 車のまわり

タイヤの状態やランプ類の状態を確認してください。

- ランプ類の点灯／点滅
- タイヤの亀裂、損傷の有無
- タイヤの空気圧
- タイヤの溝の深さ

■ 運転席のまわり

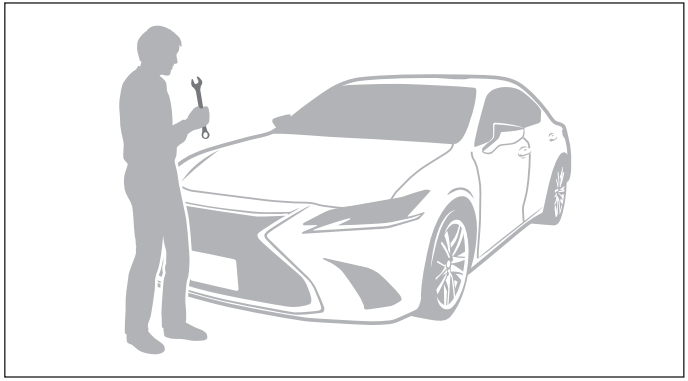
走行に必要な装備の状態を確認してください。

- エンジンのかかり具合
- ウォッシャー液の噴射状態
- ワイパーのふき取り具合
- ブレーキの踏み残りしろと効き具合
- パーキングブレーキの引きしろ（踏みしろ）
- エンジンの低速／加速状態

ハイブリッドシステム取扱い上の注意

ハイブリッドシステムには、高電圧の部位や高温になる部位があります。取り扱いにはご注意ください。

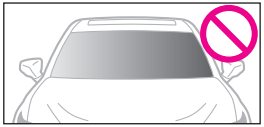
車両の不正改造と影響



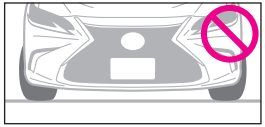
不正改造とは、車の保安基準を満たさない改造を行うことです。保安基準を満たさない部品の取り付けや、保安基準で定められた部品の取り外しなども、不正改造になります。
不正改造車は、公道を走行できません。もし走行してしまうと、ドライバーだけでなく、周りの人たちの安全を脅かすおそれがあります。

車両の不正改造の例とそれに伴う危険性

車高の変更
ステアリング操作等への影響



フロントガラスへの着色フィルム等の貼り付け
運転時の視野の確保における影響



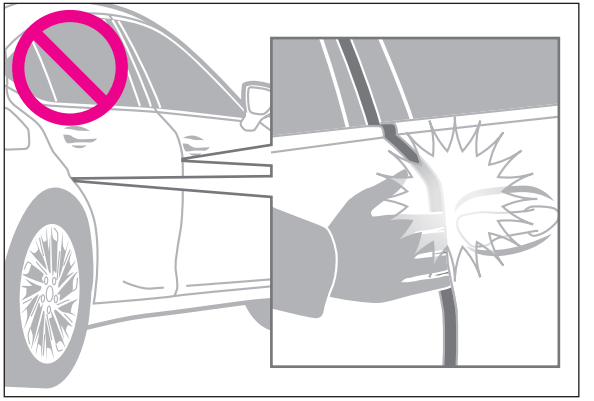
タイヤのはみ出し取り付け
歩行者等に危害を与えるおそれ

ランプ類の変更
他の交通への誤認や事故を誘発するおそれ

ドア／窓に挟み込まれないために

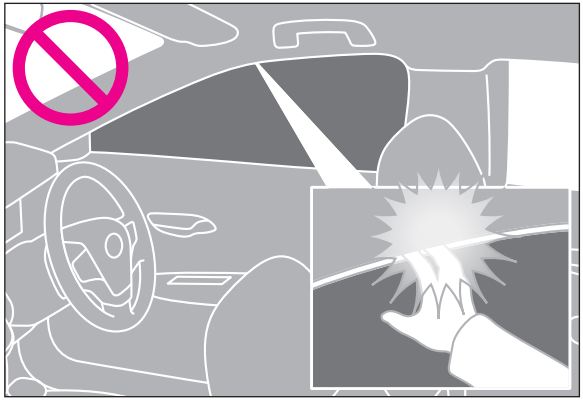
ドアや窓、トランク、バックドア、ムーンルーフの開閉時に体を挟んだり、壁や天井などにぶつけたりしないように注意してください。

イージークローザー（自動閉じ装置）作動中は体を挟まないように注意する



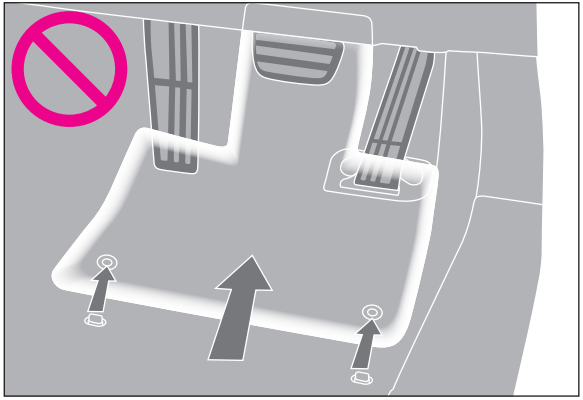
イージークローザー（自動閉じ装置）には、自動で動作を止める機能はついていません。ドアやトランク、バックドアを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。

パワーウインドウ作動中は体を挟まないように注意する



ドアガラスが完全に閉まる直前は、挟み込みを防止する機能が作動しないことがあります。
また、スイッチを引き続けた状態では挟み込みを防止する機能は作動しません。体を挟まないようにご注意ください。
ドアガラスを閉めるときは、体を挟まないように注意してください。特に、子どもが体を外に出さないように、声かけをしてください。

フロアマットの状態確認



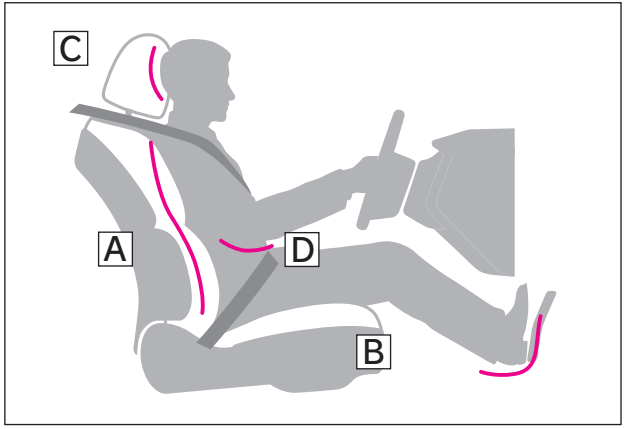
次のことを必ずお守りください。

- フロアマットをすべての固定フック（クリップ）で、正しい位置にしっかりと固定してください。
- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- 各ペダルを奥まで踏み込んでも、フロアマットと干渉しないことを確認してください。確認は、エンジンが停止している状態およびシフトポジションがPの状態で行ってください。

シートベルトを正しく着用するために

正しい運転姿勢をとる

1 運転するときは、正しい運転姿勢をとります。



A まっすぐ座り、運転操作をしたときに体が背もたれから離れない角度に調整

B ペダルが踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるシート位置に調整

C ヘッドレストの中央部分を耳のいちばん上のあたりに調整

D シートベルトを正しく着用

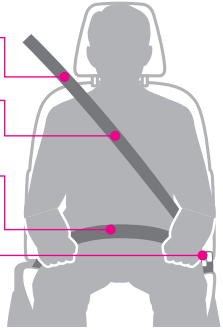
2 各装備の位置を調整したあとは、固定されていることを確認します。

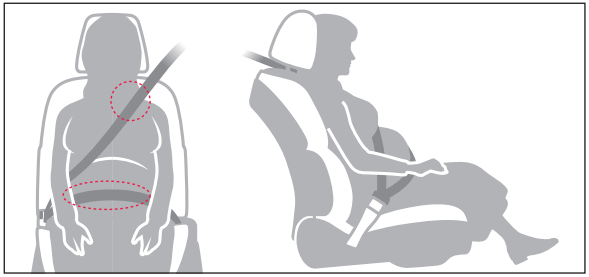
背もたれと背のあいだにクッションを入れないでください。

シートベルトの正しい着用

次のことを確認して、シートベルトを正しく着用します。

- 肩部ベルトは首にかからないようにする
- シートベルトのねじれがないようにする
- 腰部ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 上体が起きるように背もたれを調整して、深く腰かける





妊娠中のシートベルトの着用に関する注意

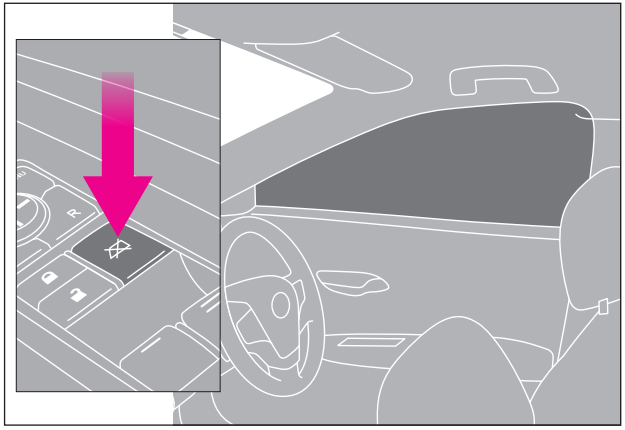
医師に注意事項を確認の上、以下のとおりにシートベルトを必ず正しく着用してください。

- 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけるため、お腹のふくらみの下に着用する
- 肩部ベルトは肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかけて着用する

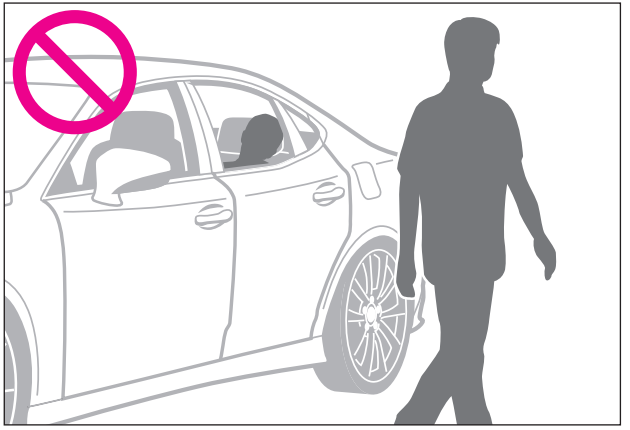
子どもを車に乗せるときは

子どもを車に乗せるときは、次のことを必ずお守りください。思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。また、最悪の場合には死亡事故につながるおそれがあります。

- 子どもにもシートベルトを着用する
  シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。
- 子どもはリヤシートに乗せる

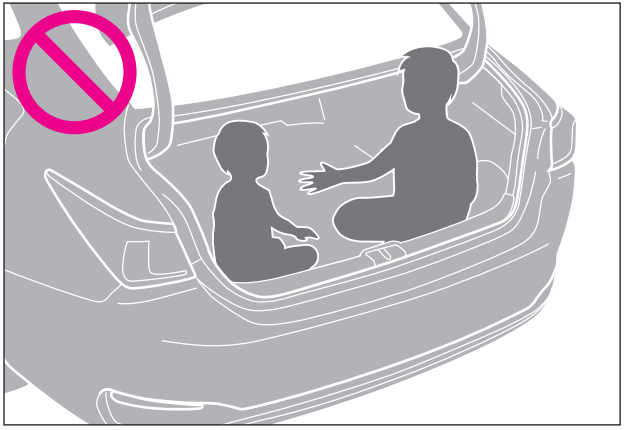


- 子どもには、パワーウインドウ、ドア、およびシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。
- 子どもがドアやパワーウインドウの開閉などでけがをしないように、チャイルドプロテクターやウインドウロックスイッチを使用してください。



●車を離れるときは、子どもを連れて出る

子どもだけを車の中に残さないでください。日中の車内は非常に高温になるため、重大な健康障害につながるおそれがあります。
また、子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

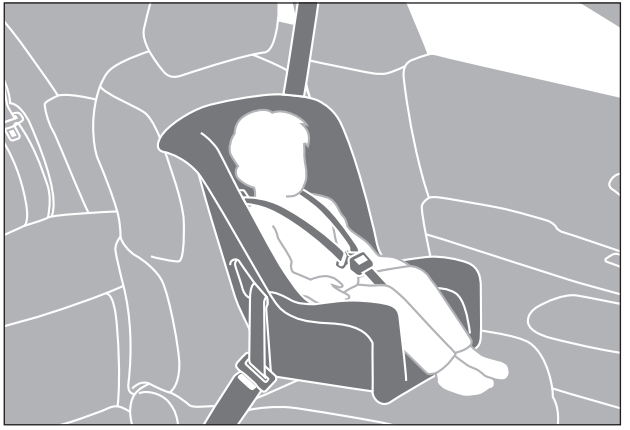


●トランクの中で子どもを遊ばせない

誤って閉じ込められた場合、重大な健康障害につながるおそれがあります。

チャイルドシートの利用

シートベルトを正しく着用できない小さな子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。
チャイルドシートはリヤシートに取り付けることを推奨します。安全のため、チャイルドシートは、リヤシートに取り付けてください。
チャイルドシートは子どもの体格にあった適切なものを用意してください。
チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。

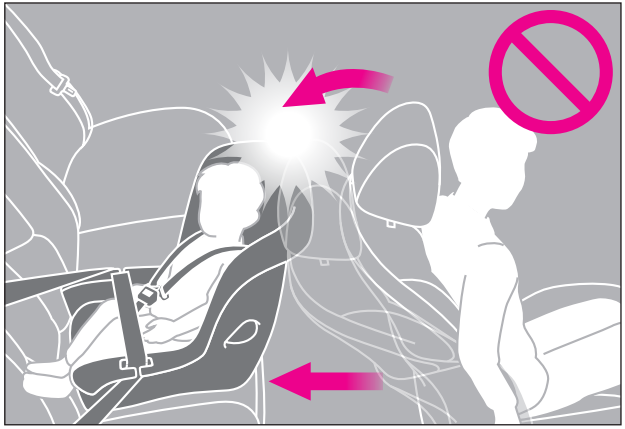


●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを後ろ向きに取り付けていると、SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

●助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合

助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げてください。SRSエアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。



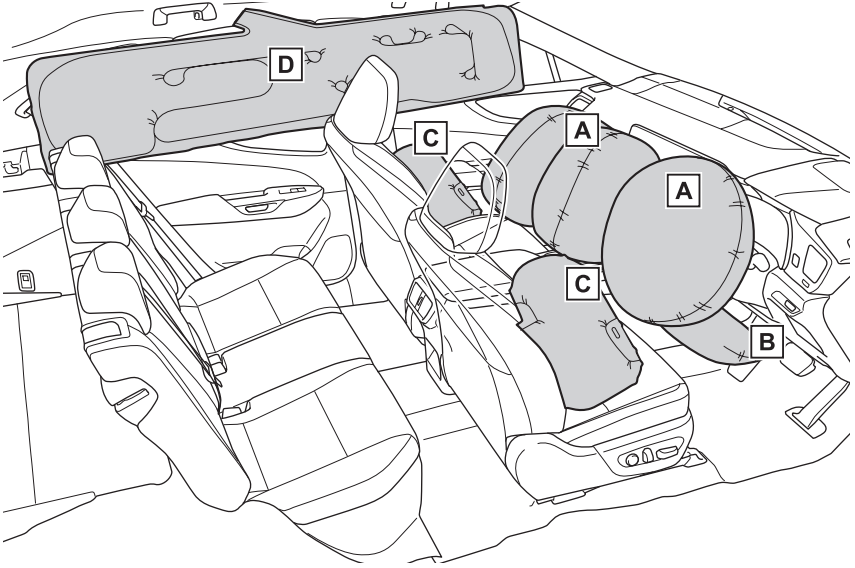
● 運転席と干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合

運転席を調整したときに、チャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。
助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

SRSエアバッグの効果を最大限発揮するために

SRSエアバッグは、乗員に重大な危害がおよぶほどの強い衝撃を受けたときにふくらみます。SRSエアバッグとシートベルトの働きによって、乗員への衝撃を緩和します。

SRS エアバッグの配置



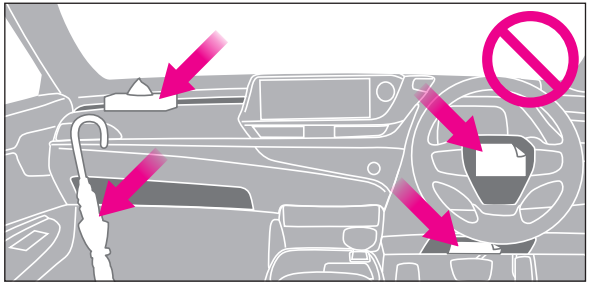
A フロントSRSエアバッグ（運転席SRSエアバッグ／助手席SRSエアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和します。

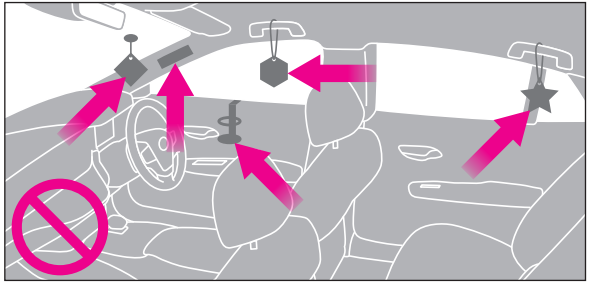
B SRSニーエアバッグ
運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助します。

C SRSサイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します。

D SRSカーテンシールドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和します。

SRSエアバッグの効果を得るために



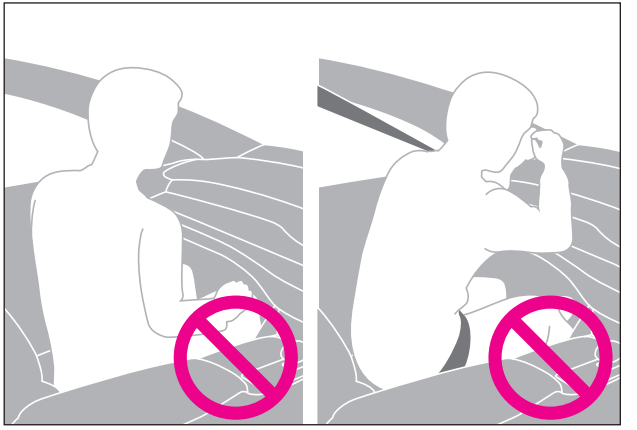


SRSエアバッグが展開する次のような部位に何かを付けたり、置いたり、かけたりしないでください。SRSエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムが作動しない、または誤って作動するおそれがあります。

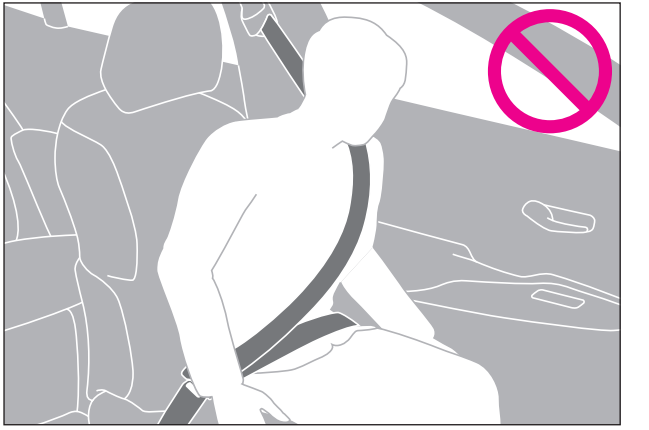
- ダッシュボード
- ハンドルのパッド部分
- インストルメントパネル下部
- ドア
- フロントガラス
- ドアガラス
- フロントピラーおよびリヤピラー
- ルーフサイドレール
- アシストグリップ

また、コートフックにはハンガーなどのかたいものをかけないでください。

正しい姿勢で乗車しないと、SRSエアバッグ作動時の強い衝撃によって、重大な傷害を受けることがあります。次の内容にしたがって、正しい姿勢で乗車してください。



●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



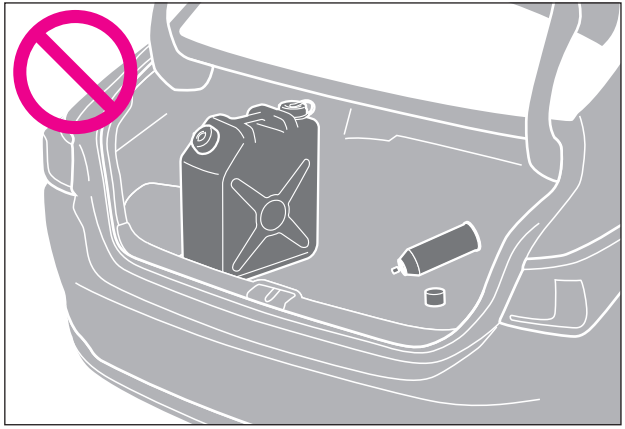
●ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない。

SRSエアバッグ展開時の注意事項

SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、SRSエアバッグにふれないでください。

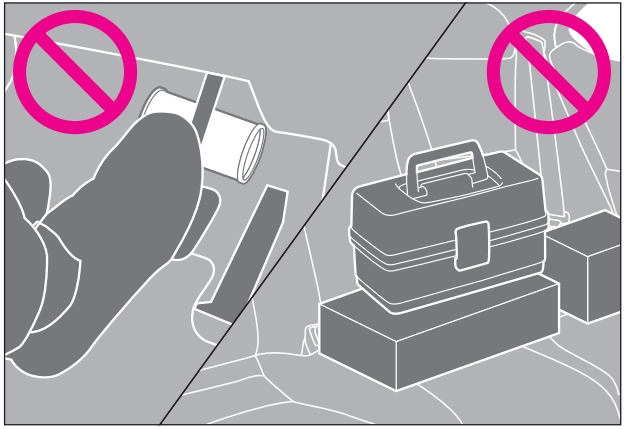
荷物を積み込むときは

車両に積んではいけないもの



燃料が入った容器やスプレー缶などの揮発性や発火性のあるものを積むと、車両火災につながるおそれがあり危険です。

車両に荷物を積むときの警告事項

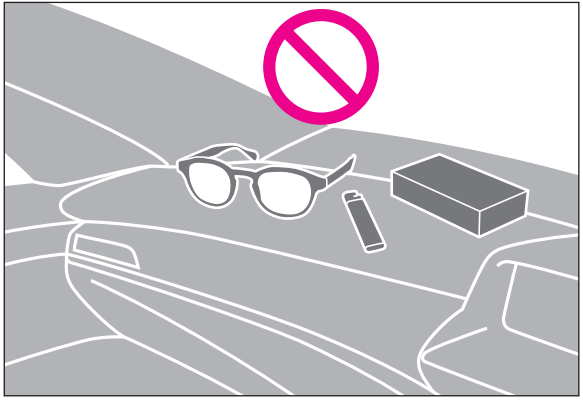


次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  ・運転席の足元　・パッケージトレイ　・インストルメントパネル　・ダッシュボード　・センターディスプレイの前
- 助手席やリヤシートには荷物を積み重ねないでください。
- 室内に積んだ荷物はすべて、しっかりと安定させてください。

カップホルダーはふたを閉じているときでも、カップや缶以外のものを置いたり、収納したりしないでください。
カップホルダーには、カップや缶以外のものを置かないでください。

車両に放置してはいけないもの

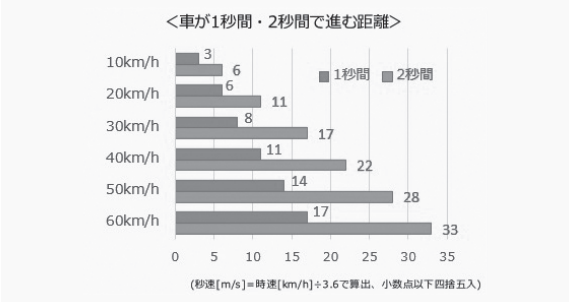


次のものを収納装備に放置しないでください。
思わぬ事故や傷害につながるおそれがあります。

- メガネ
- ライター
- スプレー缶
- 炭酸飲料の缶

事故を起こさないために

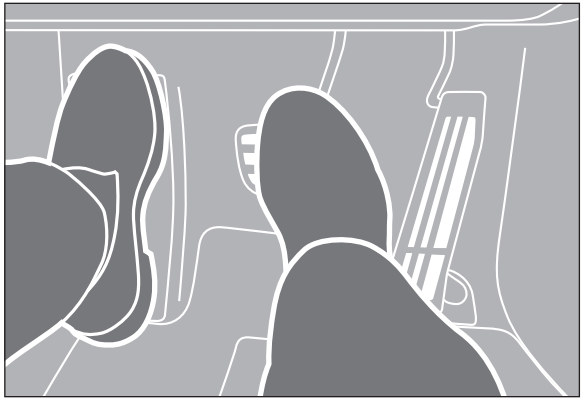
わき見運転の危険性



次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はシートやハンドル、各種ミラーといった、運転にかかわる装備の調整をしないでください。
- スマートフォン・ナビ画面の操作など、わき見運転は、絶対にしないでください。
  ほんの数秒であっても、車は数十メートル進むため、事故につながることがあります。

ペダルの位置とシフトポジションを正しく確認してください

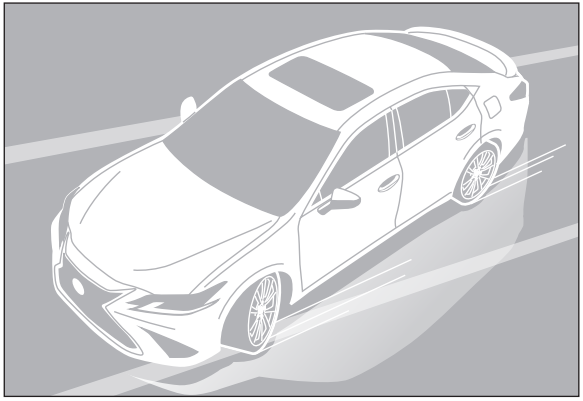


次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- 発進や後退をするときは、適切なシフトポジションが選択されていることを確認してください。
- 後退するときは、ペダルの踏み間違いや踏みすぎに注意してください。

天候や路面状況に応じた運転

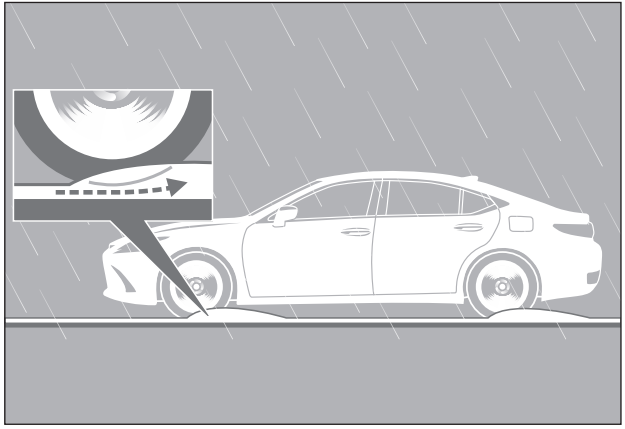
すべりやすい路面を運転するとき



雨や雪、凍結などで路面が滑りやすくなっているときは、安全に配慮した運転を心がけ、特に次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車間距離を長くとる
- スピードを控えめにする
- 急発進や急加速、急ブレーキをしない
- 急ハンドルをしない
- 急激なシフト操作をしない
  水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

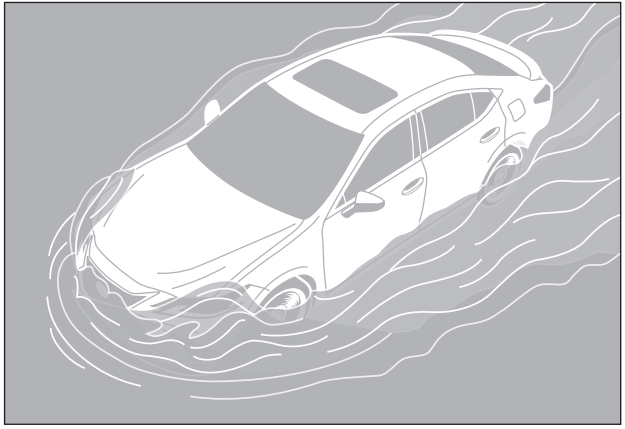
雨でぬれた路面を走行するとき



雨でぬれた路面を高速で走行すると、ハイドロプレーニング現象が発生することがあります。ハイドロプレーニング現象が発生すると、ブレーキやハンドルが効かなくなるため、アンチロックブレーキシステム（ABS）※が機能しないおそれがあります。

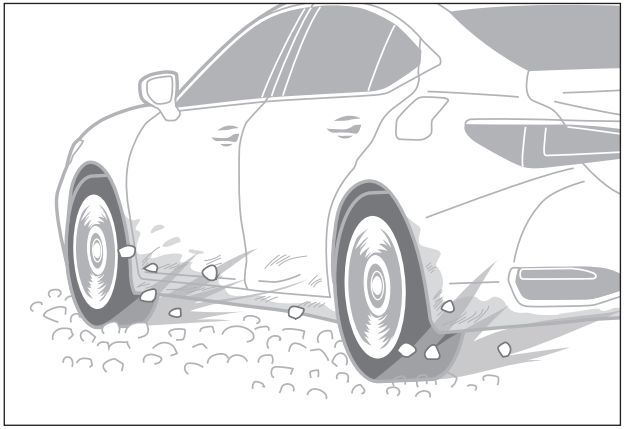
※急ブレーキ時のタイヤの回転のロックを防ぐことで、車両のスリップを抑制しハンドル操作を可能にする機能

道路が冠水しているとき



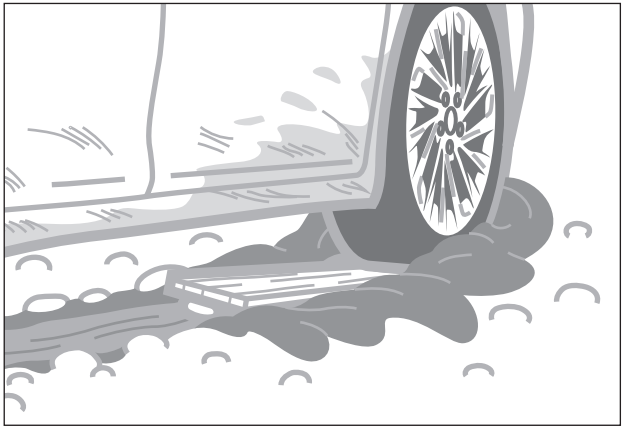
車に重大な損傷を与えるおそれがあるため、エンジンをかけたり、走行したりしないでください。車が水に浸かってしまったときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

荒れた路面を走行するとき



段差や凸凹のある荒れた路面を走行すると、タイヤの空気が抜けることがあります。タイヤの空気が抜けると、タイヤのクッション性能が低下し、車両に損傷を与えるおそれがあります。
また、荒れた路面を走行することによって受ける衝撃により、タイヤやホイール、車体を損傷するおそれがあります。

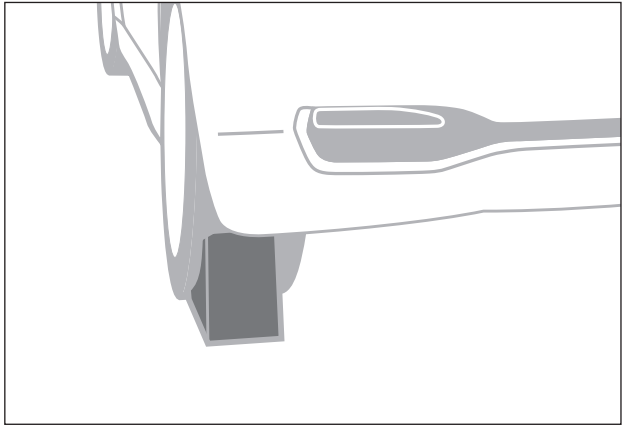
ぬかるみにはまったとき



駆動輪周辺の土や雪などを取り除き、駆動輪の下に木や石などをあてがい、脱出を試みてください。
脱出できなかった場合は、けん引による救援が必要です。

天候や路面状況に応じた駐停車

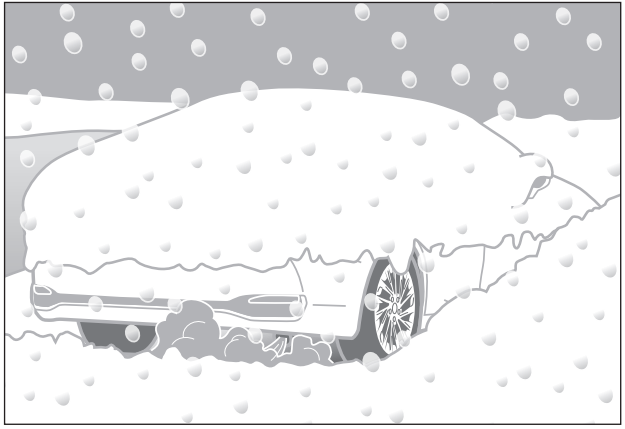
坂道で駐車するとき



必要に応じて、輪止め※を使用してください。

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

降雪時や雪が積もった場所で駐車するとき



エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

停車するときの警告事項

長時間、エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスが車内に侵入し、人体に害をおよぼすおそれがあります。
やむを得ず、長時間エンジンをかけたままにする場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。また、可燃物の近くに停車しないでください。

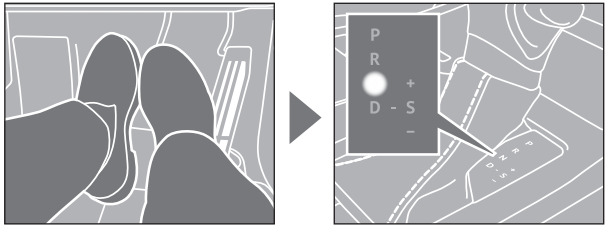
Lexus Safety System + 等の運転支援装置を使用するときは

車には、事故被害や運転負荷の軽減、安全性向上のためのさまざまなシステムが搭載されています。
しかし、システムの認識性能や制御機能には限界があります。
システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
また、システムによっては、作動終了によって機能が解除されるものがあります。必要に応じて運転操作を行ってください。
詳しい取扱情報については、デジタル取扱説明書をご覧ください。

車両を緊急停止させるときは

緊急の場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止すると、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。

万一、車が止まらなくなったときは、車を緊急停止します。次の手順に従って、車を停止させてください。



1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。
ブレーキペダルは、くり返し踏まないでください。

2 シフトポジションをNにします。
シフトポジションがNになった場合と、ならなかった場合とでは手順が異なります。状況に応じて必要な操作を行ってください。

●シフトポジションがNになった場合

3 減速してから、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

●シフトポジションがNにならない場合

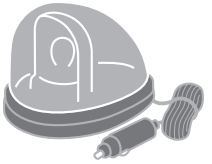
3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止します。

5 車を安全な道路脇に停めます。

停止表示板または停止表示灯の表示の義務と購入

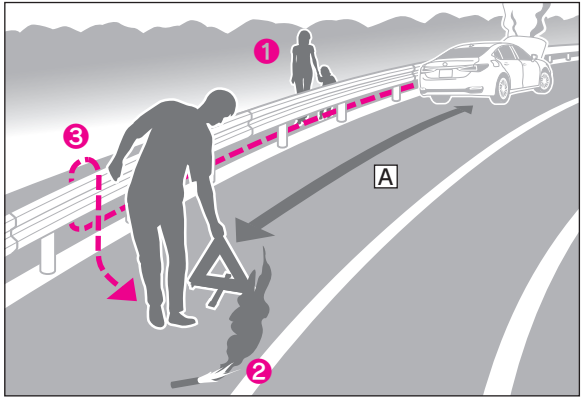
停止表示板



停止表示灯

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯を表示してください。これらの表示は、法律によって義務付けられています。
停止表示板や停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

車両が故障したときの対応



車両が故障したときは、すみやかに次の作業を行ってください。

- 非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せて停めます。
- 高速道路や自動車専用道路では、次の作業を行います。

❶ 同乗者を避難させます。

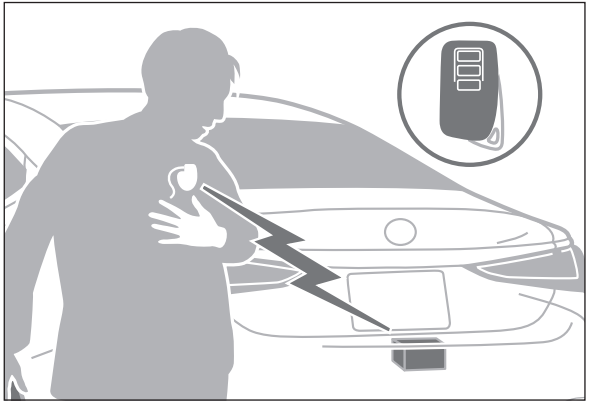
❷ 車両の50m以上後方 A に停止表示板または停止表示灯、および発炎筒を置きます。

・見通しが悪い場合は、停止表示板または停止表示灯、および発炎筒をさらに後方に置いてください。

・発炎筒は、燃料がもれている場合やトンネル内では使用しないでください。

❸ ガードレールの外側など、安全が確保できる場所に避難します。

電波が心臓ペースメーカー等に及ぼす影響



スマートエントリー＆スタートシステムは、電子キーと車のアンテナとの間で微弱な電波の送受信を行っています。
スマートエントリー&スタートシステムの電波は、医療用の電気機器に影響を及ぼすおそれがあります。次のように対応してください。

- 植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ／植込み型除細動器を装着されている方：アンテナから約22cm以内に近付かないでください。
- 上記以外の医療用電気機器をお使いの方：スマートエントリー＆スタートシステムの電波による影響について、医療用電気機器の製造業者に事前に確認してください。

  スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくは、レクサス販売店にお問い合わせください。

第 3 章 Important Information
インポータントインフォメーション

▶取扱説明書

はじめに	62
車を運転する前の準備	62
車を運転するときに知ってほしいこと	80
時間帯や天候に合わせた運転と装備	87
快適装備と便利な室内装備の使いかた	90
メーター／ディスプレイの機能と表示される情報	99
安全運転を支援する機能	101
通信で安心、快適、便利を支援するしくみ	117
車のお手入れ	118
困ったときの対処方法	124
車の仕様、諸元、装備	133

▶ナビゲーションシステム取扱説明書

はじめに	134
基本操作	134
各種設定および登録	135
スマートフォンや通信機器の接続	135
ナビゲーション	136
オーディオシステム	136
ハンズフリー電話	139
G-Link	139
駐車支援システム	143
ETCの利用	148
付録	150

はじめに

安全なドライブのための注意

⚠ 警告

- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節といった運転から注意がそれることをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者といった周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

専用のフロアマットを正しく使う

⚠ 警告

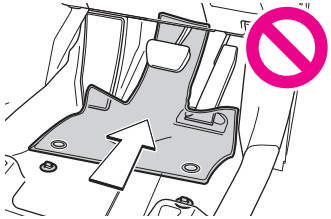
- 運転席にフロアマットを敷くときは、レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

フロアマットを固定する

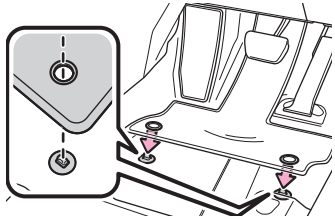
⚠ 警告

運転する前に次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



⚠ 警告

固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。

子どもを車に乗せる

⚠ 警告

- 車を離れるときは、子どもを連れて出る
  子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車内に人や動物を残したままにしない
  日中の車内は非常に高温になるため、熱中症や、熱中症を原因とした死亡事故につながるおそれがあります。

- 子どもを抱いたまま乗車しない
  子どもを抱いて乗車すると、事故の際にウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。子どもにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。
- 小さな子どもにはチャイルドシートを使用する
  シートベルトを正しく着用できない子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。
- チャイルドシートを正しく使用する
  チャイルドシートは、事故や急停止の際に子どもを保護します。チャイルドシートはしっかり取り付けて、正しく使用してください。
- 衝撃を受けたチャイルドシートは交換する
  事故などで衝撃を受けたチャイルドシートは、外観に問題がなくても、衝撃吸収性能が落ちている可能性があります。
- 使用しないチャイルドシートは運転の妨げにならないように固定する
  チャイルドシートを使用しないときも、運転の妨げにならないように、しっかりと固定してください。チャイルドシートを取り外したときは、車外で保管するか、ラゲージルーム内で固定して保管してください。

子どもを乗せる位置

⚠ 警告

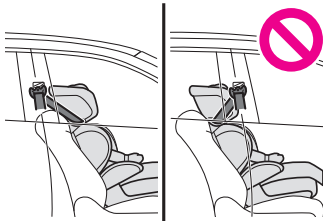
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げて、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを正しく取り付けないと、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- ドア／ピラー／ルーフサイドレールに子どもがもたれかからないようにしてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- 運転席を調整したときに、子どもやチャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- 助手席と子どもやチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。
- 身長 100cm 以上の子どもを車に乗せるときは、ジュニアシートを使用してください。ジュニアシートを使用しているときは、シートベルトが正しく装着されていることを確認してください。

子どもにあったチャイルドシートを選ぶ

チャイルドシートを選ぶときの注意

⚠ 警告

- チャイルドシートの隣の座席で、シートベルトが正しく装着できることを確認してください。チャイルドシートの種類によっては、シートベルトが正しく装着できないことがあります。その場合は、他の座席を使用してください。
- 運転席を調整したときに、子どもやチャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- 助手席と子どもやチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときにシートの背もたれと干渉する場合は、背もたれを調整してください。
- チャイルドシートのベルトガイドが、シートベルトのショルダーアンカーより前になるようにシート位置を調整してください。



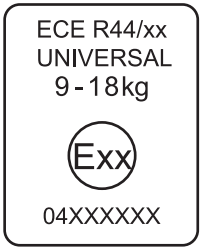
- ジュニアシートを取り付けるときに、子どもがかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。

チャイルドシートの選びかた

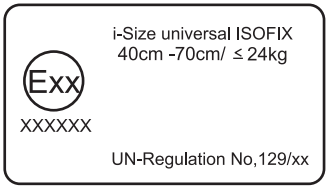
チャイルドシートは、UN(ECE)R44 または UN(ECE)R129 に適合したものを使用してください。UN(ECE)R44 および UN(ECE)R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ 例

「UN（ECE）R44」



「UN（ECE）R129」



⚠ 注意

- 表示されているマークは、商品により異なります。
- チャイルドシートのカテゴリーが不明な場合はチャイルドシートの取扱説明書、またはメーカーに確認してください。

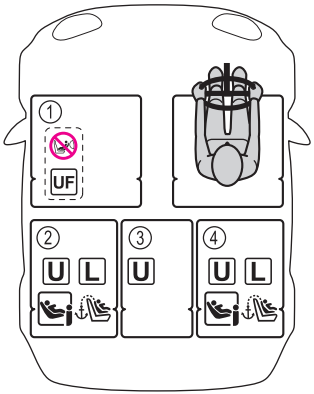
■ 推奨するチャイルドシート

質量グループ 子どもの体重	推奨チャイルドシート	固定方法	
		シートベルトによる固定	シートロアアンカでの固定
グループ 0、0 ＋ 13kg まで	レクサス純正 NEO G-Child baby	O	×
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	O
グループ I 9 ～ 18kg	レクサス純正 NEO G-Child baby	O	×
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	O
グループ II 、III 15 ～ 36kg	レクサス純正ジュニアシート	O	×

知識

レクサスでは、厳しい品質基準をクリアしたレクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。詳しくは、レクサス Web サイトまたは、お近くのレクサス販売店へお問い合わせください。

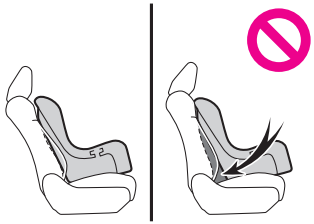
チャイルドシートとシート位置の適合性



着座位置				
シート位置の番号	① (1)(2)(3)	② (2)(3)	③ (2)(3)	④ (2)(3)
ユニバーサル（汎用）ベルト式の搭載可否（有／無）(4)	有 前向きのみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートの搭載性（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3）	×	R1、R2X、R2、R3	×	R1、R2X、R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、F3	×	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	×	B2、B3	×	B2、B3

(1) シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

(2) 背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように、可能な限り背もたれを起こしてください。



(3) ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはず

しが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

(4) すべてのユニバーサルカテゴリー（グループ 0、0+、I、II、III）。

● レクサスでは、② および ④ シート位置を推奨しています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

装着可能な推奨チャイルドシートに記載されたチャイルドシートに適しています。（→ ※）

i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

次の場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を確認するか、レクサス販売店またはチャイルドシートを購入した販売店にお問い合わせください。

● チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーではない場合
● チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーかどうかわからない場合

チャイルドシートを取り付ける

⚠ 注意

チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。

ISOFIX ／ i-Size 対応のチャイルドシートを取り付ける

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
● ISOFIX ロアアンカレッジの周辺に障害物がないこと、シートベルトが挟まっていないことを確認してください。
● チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

● テザーベルトがねじれていないことを確認してください。
● テザーベルトは、確実にトップテザーアンカレッジに掛けてください。
● テザーベルトがしっかり固定されていることを確認してください。
● チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
● チャイルドシートを固定したあとは、ヘッドレストの高さを調整しないでください。
● チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

シートベルトでチャイルドシートを固定する

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 警告

シートベルトでチャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

- 子どもがシートベルトで遊ばないように注意してください。ベルトが首に巻き付くと、窒息や死亡につながるおそれがあります。シートベルトが首に巻き付き、バックルもはずせないときは、シートベルトを切断してください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが子どもの肩を保持していることを確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されていることを確認してください。
- シートベルトがねじれていないことを確認してください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

助手席にチャイルドシートを取り付ける

⚠ 警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートをうしろ向きに取り付けていると、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばんうしろに下げてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- ドア／シート／ピラー／ルーフサイドレールと子どもの体が接触しないようにしてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、シートベルトが正しく装着されていることを確認してください。
- 子どもの年齢、体格に合ったチャイルドシートを選んでください。

キーの種類

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐ

以下のことに注意してください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしないでください
- 温度の高いところに長時間放置しないでください
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしないでください
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしないでください
- 分解しないでください

- 電子キー表面にシールなどを貼らないでください
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かないでください

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■カードキーの取り扱い

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

知識

■電子キーの取り扱い

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

スマートエントリー＆スタートシステム

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナからの影響）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナから 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

デジタルキー★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ デジタルキーの取り扱い

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

ドアの開閉

警告

■ **走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

- すべてのドアを確実に閉め、ロックしてください。
- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さないでください。特に、運転席はドアがロックになっていてもドアが開く可能性があるため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、車内からドアが開くことを防ぐために、チャイルドプロテクターを使用してください。

■ **ドアを開閉するときの留意事項**

ドアを開閉するときは、周囲の状況を確認し、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。特に次のような場所では、予期せぬ動きにも対処できるように注意してください。

- 傾斜した場所
- ドアと壁などのあいだが狭い場所
- 強風が吹いている場所

クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の働き

警告

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じロックされると、すべてのドアがロックされたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアがロックされたことを確認してください。

盗難防止装置

知識

■ **エンジンイモビライザーとオートアラームのメンテナンスの有無**

エンジンイモビライザーシステムとオートアラームシステムのメンテナンスは不要です。。

エンジンイモビライザーシステムを作動させる

注意

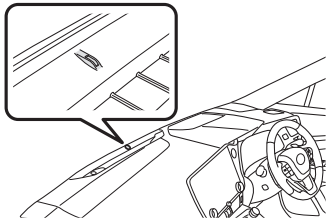
システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラームを設定する

注意

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

ドアおよびボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使って車両をロックします。車両をロックしてから 30 秒以上経過すると、自動的にオートアラームが設定されます。



オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。
ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームはセットできます。

オートアラームを解除／停止する

オートアラームを解除／停止するには、次のいずれかを行います。

- スマートエントリー＆スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使って、ドアをロック解除する
- エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する

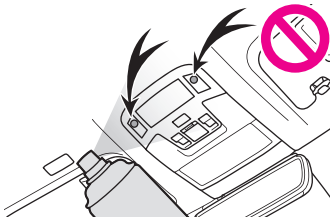
数秒後にオートアラームが解除／停止します。

侵入／傾斜センサーのはたらき

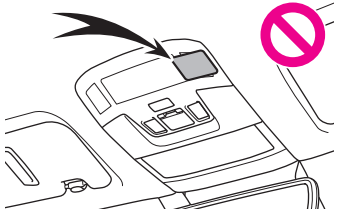
⚠ 注意

侵入センサーを正しく作動させるために、次のことを必ず守ってください。

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したり、ものを放置したりしないでください。検知性能が低下することがあります。
- 電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

侵入／傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。

侵入／傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入／傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。
侵入／傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

1 ショートカット画面表示スイッチをタッチします。
2 をタッチします。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、侵入／傾斜センサーが停止します。
もう一度タッチすると、侵入／傾斜センサーは再びセットされます。
侵入／傾斜センサーを OFF/ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ **侵入／傾斜センサーの復帰**

● 侵入／傾斜センサーを停止したあとに、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンによるロック解除操作を行うと、侵入／傾斜センサーは復帰します。
● 再度オートアラームをセットすると、侵入／傾斜センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

車両への荷物の積み込み

ラゲージルームに荷物を積むときの注意

警告

■ **荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル／アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 次のようなものを積まないでください。引火するおそれがあります。
・ 燃料が入った容器
・ スプレー缶
● できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
● シートの背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
● 後席シートの背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
● 後席シートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
● ラゲージルームに人を乗せないでください。
乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
● 次の場所には荷物を積まないでください。
・ 運転席の足元
・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・ トノボード
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード
● 室内に積んだ荷物は、すべてしっかりと安定させてください。
● ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。
荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **荷物の重量／荷重のかけ方の注意**

● 荷物を積みすぎないでください。
● できるだけ荷重を均等にかけてください。
荷重を不均等にかけると、各タイヤに異なる荷重がかかります。さらに、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ **ルーフレールを使用するときは（ルーフレール装着車）**

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。
ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

● 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。
  高速走行や急加速、急旋回、急ブレーキといった急な操作は避けてください。車両を適切に操作できなくなることで横転するおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 80kg 以上の荷物を積まないでください。

⚠ 注意

ムーンルーフやパノラマルーフに荷物を触れさせないでください。ムーンルーフやパノラマルーフに傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

バックドアの機能と働き

⚠ 警告

■ 走行する前に

次のことを必ずお守りください。

- 走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
- パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手／腕／頭／首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。

- 走行中はパワーバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にパワーバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
  急ブレーキ／急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーバックドアの使用にあたって次のことを必ずお守りください。

次のことを必ずお守りください。

- パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
  バックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

●スピンドルユニットを持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■**バックドアイージークローザーについて**

●パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動がOFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■**パワーバックドアについて**

次のことを必ずお守りください。
●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
●傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
●次のような場合は、十分注意してください。システムが異常と判断して自動作動が停止して手動操作に切りかわり、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。

・自動作動中、バックドアが障害物に干渉したとき
・エンジン停止中でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

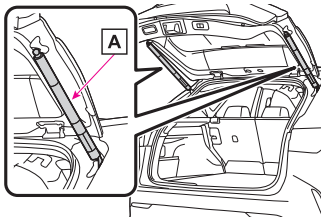
■**挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。
●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
●挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■**スピンドルユニットに関する注意**

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット A が取り付けられています。



スピンドルユニット A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片／ステッカー／粘着材といった異物をスピンドルユニットに付着させない
●バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ **パワーバックドアやバックドアイージークローザーの故障の防止**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パワーバックドアやバックドアイージークローザの故障につながるおそれがあります。

- バックドアイージークローザーの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物のような鋭利なもので傷付けないように注意してください。
  センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

⚠ 警告

バックドアを閉めるときは、次のことをお守りください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
  バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニットを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。
ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく
  リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。
  その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからキックセンサー作動するか確認を行ってください。
  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない
- リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない
  リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、キックセンサーが作動しなくなることがあります。
  その場合、現在の位置から車両を動かしてからキックセンサーが作動するか確認を行ってください。
  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
  次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
  - キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアや重みのあるものを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

⚠ 警告

キックセンサーを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする場合は、十分に排気管が冷却されるまでふれないでください。
  排気管が熱くなっていると、やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、キック操作をしないでください。

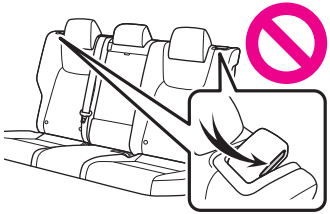
リヤシートの背もたれ

⚠ 警告

■背もたれを操作するとき

次のことをお守りください。

- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



■背もたれを前倒しするときや、前倒しした後は

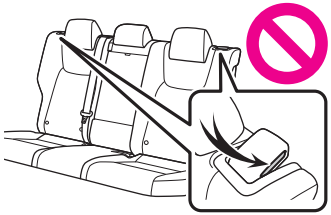
次のことをお守りください。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入ることのないよう注意する

■背もたれをもとの位置に戻したあとは

背もたれをもとにもどした後は、次のことを行ってください。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実にシートを固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーが赤色に見えます。赤色が見えないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

■挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

次のことをお守りください。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に戻る直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

背もたれを前に倒すときは、倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。

窓の開閉

⚠ 警告

次のことを必ず守ってください。運転者は、乗員の操作を含むすべての窓の開閉操作について責任があります。

- 子どもには窓の操作をさせないでください。子どもの誤った操作によって、子どもや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、子どもが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。
- 窓を開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだり巻き込んだりしないか確認してください。
  特に子どもへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯して子どもも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ **パワーウィンドウの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

安全な窓の開閉を補助するための機能

⚠ 警告

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、窓が完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。
  また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。
  指などを挟まないか注意してください。

■ **巻き込み防止機能**

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／服などを巻き込ませたりしないでください。
- 乗員の手／腕／服などを巻き込まないか注意してください。巻き込み防止機能は、窓が完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。

ワイヤレスリモコンを使った操作

⚠ 警告

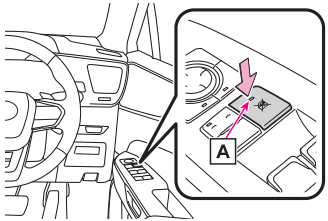
ワイヤレスリモコンを使って窓を操作するときは、窓に人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人が窓に挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

誤って窓を開けられないようにする

ウインドウロックスイッチは子供が誤って窓を開閉することを防止するための機能です。

ウインドウロックスイッチを押します。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外の窓が非作動になります。



シートの調整

フロントシートを調整する

⚠ 警告

シートを調整するときは次のことをお守りください。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟むおそれがあります。

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

⚠ 警告

次のことをお守りください。
- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

リヤシートの位置を調整する

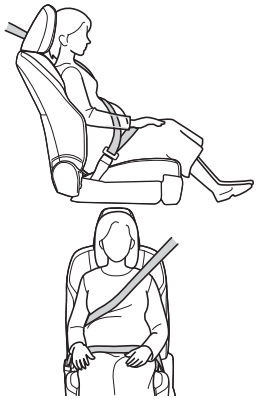
⚠ 警告

背もたれを調整するときは次のことを必ずお守りください。
- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。
- パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

シートベルトの着用

⚠ 警告

シートベルト使用に関する、次のことをお守りください。
- 全員がシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトは一組につき一人で使用してください。
  子どもでも一組のベルトを複数の人で使用しないでください。
- 子どもはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させてください。
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座ってください。
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しないでください。
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用してください。
- 妊娠中の女性の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
  通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
  ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 疾患のある方の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート／シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- お子さまを乗せるときは、お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

知識

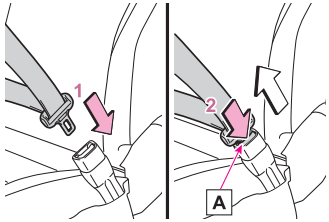
■子どものシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さな子どもの場合は、子どもの体に合ったチャイルドシートを使用してください。
- シートベルトが正しい位置で着用できる子どもの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

シートベルトを着ける、はずす

1 ベルトを固定するには、「カチッ」と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押します。



知識

■シートベルトロックを解除する方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトの取扱い

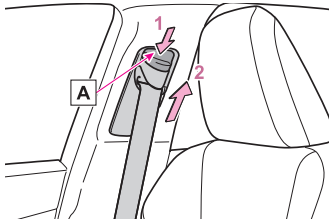
刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ／ほつれ／傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。
うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

フロント席のシートベルトの高さを調節する

1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げます。
2 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを上げます。
「カチッ」と音がして固定されるところまで動かしてください。



ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する

⚠ 警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

インナーミラーの位置を調整する

⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

デジタルインナーミラーの効果と注意★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
  - ・光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
  - ・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

デジタルインナーミラーを調整する

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

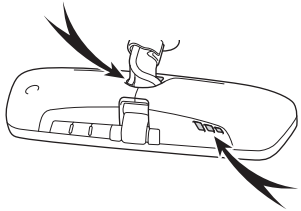
- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。
  デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

デジタルインナーミラーのお手入れ

⚠ 注意

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - ・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - ・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
  - ・有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - ・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。
- ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながる恐れがあり危険です。



ドアミラーの角度を調整する

⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーが動いているときは、手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- ミラーヒーターが作動しているときは、鏡面が熱くなるのでふれないでください。
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整してください。

エンジンの始動

エンジンを始動する

⚠ 警告

エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

⚠ 注意

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジンスイッチのモードを切りかえる

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

エンジンを停止

エンジンを停める

⚠ 警告

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

アイドリングストップ

アイドリングストップの効果と注意

⚠ 警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

安全に走行するには

⚠ 警告

■運転するとき

- エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。
  ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。
  左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、車両を緊急停止させてください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
- 走行中はハンドル／シート／ドアミラー／インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。

・やむを得ず砂地やぬかるみを走行する際は慎重に運転していただき、連続走行をしないでください。
・岩石路やモーグル路の走行はしないでください。

- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急ブレーキ／急加速／急ハンドルはしないでください。タイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。エンジンブレーキやエンジン回転数の変化により、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

●AWD 車：
万一脱輪し、駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■部品の損傷を防ぐために

●ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。
パワーステアリングモーターに損傷をあたえるおそれがあります。
●段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。ディスクホイールなどに損傷をあたえるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。タイヤのパンクや損傷が考えられます。
●ハンドルがとられる
●異常な音や振動がある
●車両が異常に傾く

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では走行しないでください。次のような重大な損傷を与えるおそれがあります。
●エンストする
●電装品がショートする
●水を吸い込んでのエンジン破損
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。
●ブレーキの効き具合
●エンジン／オートマチックトランスミッション／トランスファー（AWD 車）／ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
●プロペラシャフト（AWD 車）／各ベアリング／各ジョイント部などの潤滑不良
冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。
その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ターボ装置の故障を防ぐために (NX350)

●高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。
必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。
●排気管／エアクリーナ／スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
●排気管の改造は絶対にしないでください。
●エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
●定期的なオイル交換を必ず行ってください。

シフトポジションの使用目的

⚠ 警告

すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。エンジンブレーキやエンジン回転数の変化により、車が横すべりするなどのおそれがあります。

⚠ 注意

■ **シフト制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。
安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションを切りかえる

⚠ 警告

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったりハンドル操作が重たくなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

シフトポジションの切りかえ方法と表示

⚠ 警告

■ **シフトレバーについて**

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ **P ポジションスイッチについて**

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■ **シフトポジションの切りかえ操作について**

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■ **車を降りるとき (運転席のみ)**

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチを ACC にする

⚠ 注意

■ **N ポジションを保持したまま ACC にするときは**

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチを ACC にするときは、必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

車を発進する

⚠ 警告

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

上り坂で車を発進する

⚠ 警告

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

車を停めるときに確認すること

駐停車するときの注意

⚠ 警告

■駐車するとき

- 炎天下では、メガネ／ライター／スプレー缶／炭酸飲料の缶といった高温になると危険なものを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
  - ・プラスチックレンズ／プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
  - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になったりする
- ライターを、車内の収納装備に入れておいたり、車内に落としたままにしておいたりしないでください。
  荷物を入れたりシートを動かしたりしたときに、ライターが誤作動し火災につながるおそれがあります。
- 車両のガラス部分には吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤のような容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドア／フロント／リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンの回転中またはエンジンの停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車室内で仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

⚠ 警告

排気ガスには無色／無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はバックドアを閉じてください。
  バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 車庫内のような換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。
- 排気管は定期的に点検する必要があります。点検し、次の一つでもあてはまった場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
・ 排気管に腐食による穴や亀裂がある
・ 排気管のつなぎ目の部品に損傷がある
・ 異常な排気音がする

停車する

⚠ 警告

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなります。また、ブレーキがかかりにくく、ブレーキのかかり具合に左右のタイヤで違いが出るおそれがあります。さらに、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。
  また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキの油圧システムが故障した場合は、ただちにブレーキの修理を受けてください。ブレーキシステムは 2 つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方のシステムは作動します。ただし、この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。

⚠ 注意

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

⚠ 警告

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

駐車する

⚠ 警告

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

| パーキングブレーキの操作

⚠ 警告

■駐車するとき

子どもだけを車の中に残したままにしないでください。子どもが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにし、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
  パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをＰにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

給油

給油口を開ける

⚠ 警告

キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、「シュー」という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

給油するときの注意

⚠ 注意

■給油するとき（NX350）

- 燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。
- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。
  - ・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
  - ・ガソリンエンジンの出力が低下する
- その他の燃料（粗悪ガソリン／軽油／灯油／高濃度バイオ混合ガソリン[*1]）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。
  - ・ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
  - ・ガソリンエンジンの出力が低下する
  - ・エンジンの始動性が悪くなる
  - ・排気制御システムが正常に機能しない
  - ・燃料系部品が損傷する

■給油するとき（NX250）

指定のガソリンを使用してください。

その他の燃料（粗悪ガソリン／軽油／灯油／高濃度バイオ混合ガソリン[*1]）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

*1: エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE の混合率22%をこえるもの

⚠ 警告

給油するときは、次のことを必ずお守りください。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
  また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。静電気が溜まり、発火につながるおそれがあります。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口を閉める

⚠ 警告

キャップが正常に閉まらないときは、必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災につながるおそれがあります。

ヘッドランプの使用

ヘッドランプをつける

⚠ 注意

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

自動的にロービームとハイビームを切りかえる

AHS（アダプティブハイビームシステム）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

AHB（オートマチックハイビーム）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

雨の日の視界の確保

フロントワイパーを使う

⚠ 警告

ワイパーで指などを挟まないように注意してください。
AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 注意

フロントワイパーを使うときは、次のことをお守りください。

- エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスが乾いているときはワイパーを使わないでください。
  ガラスを傷付けるおそれがあります。

フロントウォッシャーを使う

⚠ 警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

リヤワイパーを使う

⚠ 注意

リヤワイパーを使うときは、次のことをお守りください。

- エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- リヤウインドウガラスが乾いているときは 、ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

リヤウォッシャーを使う

⚠ 注意

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

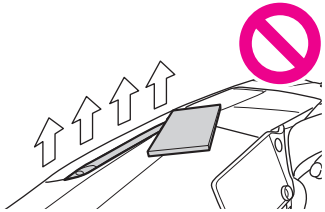
⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

フロントウインドウガラスの曇りを取る

⚠ 警告

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。
  送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



リヤウィンドウの曇りを取る

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

ドアミラーの水滴や霜を取る

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

寒くなる前の準備

冬用タイヤの装着

⚠ 警告

冬用タイヤを装着するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

⚠ 注意

冬用タイヤの修理／交換するときは、レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け／取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

タイヤチェーンを使うとき

⚠ 警告

タイヤチェーンを装着するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができなくなるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速／急ハンドル／急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

寒冷時の運転で知っておくこと

寒冷時に運転する前の確認

⚠ 注意

ガラスに付いた氷を除去するときは氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

フロントウィンドウを暖めて凍結したワイパーを動かす★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

ウインドシールドデアイサーが作動しているときは、フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなりやけどをするおそれがあるので、ふれないでください。

フォグランプの点灯

フォグランプを使う

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

Trail Mode (AWD vehicles)

⚠ 警告

■Trail Mode をお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Trail Mode は悪路を走行する場合のみに使用してください。
- Trail Mode 表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。
- Trail Mode は、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

⚠ 注意

■Trail Mode を正常に作動させるために

Trail Mode を長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

DAC

⚠ 警告

■ダウンヒルアシストコントロールを使うときは

ダウンヒルアシストコントロールを過信しないでください 。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両の一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 未舗装路

ブレーキホールド

⚠ 警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

｜ドライビングポジションを登録する（ポジションメモリー機能）

⚠ 警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

｜ドライビングポジションを呼び出す（ポジションメモリー機能）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

電子キーに登録したドライビングポジションを呼び出す（メモリーコール機能）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

エアコンの使い方

⚠ 注意

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

エアコン操作スイッチ

⚠ 警告

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解／修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

ステアリングヒーターのはたらき★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

次の方がステアリングヒーターに触れないようにご注意ください。やけどするおそれがあります。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

エンジンが停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

シートヒーターのはたらき★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 低温やけどを防ぐために

次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布／クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防ぐために**
エンジンが停止した状態でシートヒーターを使用しないでください。

シートベンチレーターのはたらき★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■**シートベンチレーターの損傷を防ぐために**
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防ぐために**
エンジンが停止した状態でシートベンチレーターを使用しないでください。

ムーンルーフの使い方★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

- 走行中はルーフから手や顔を出さないでください。
- 開口部に腰かけないでください。
- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特に子どもの誤った操作による事故を防ぐため、子どもにはムーンルーフの操作をさせないでください。子どもや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  また子どもには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。子どもや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車に子どもが乗っているときに、車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯して子どもも一緒に車から離れてください。もし子どもを車の中に残して離れると、いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■**ムーンルーフの作動条件**
パワースイッチが ON のとき

ムーンルーフを安全に開閉するための補助機能

⚠ 警告

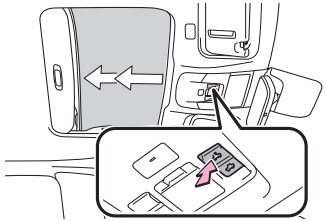
■**挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。
  また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。
  指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフを開ける

を押します。*1

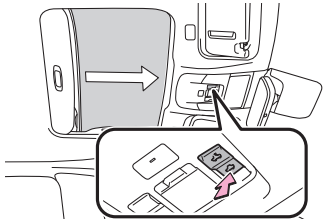
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）



*1: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

ムーンルーフを閉める

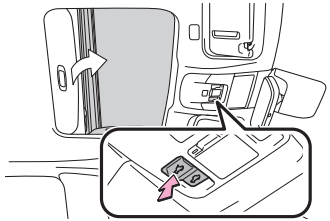
を押します。*2



*2: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

ムーンルーフをチルトアップする

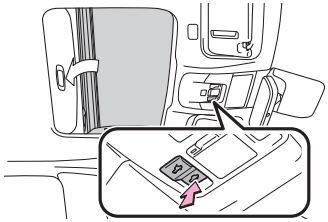
を押します。*3



*3: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

ムーンルーフをチルトダウンする

を押します。*4



*4: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフの使い方★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

パノラマムーンルーフを開閉するときは、次のことを必ずお守りください。

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特に子どもの誤った操作による事故を防ぐため、子どもにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。子どもや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  また子どもには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。子どもや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車に子どもが乗っているときに、車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。もし子どもを車の中に残して離れると、いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■パノラマムーンルーフの作動条件
エンジンスイッチが ON のとき

パノラマムーンルーフを安全に開閉するための補助機能

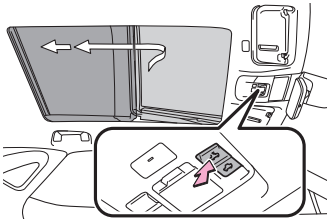
⚠ 警告

■挟み込み防止機能
- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。
  また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。
  指などを挟まないように注意してください。

パノラマムーンルーフを開ける

を押します。*1

を押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。チルトアップした状態からでも開くことができます。



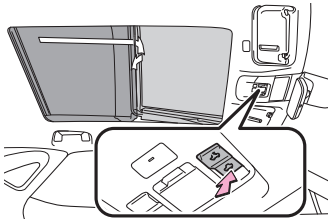
*1: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフを閉める

を押します。*2

パノラマムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。

全閉にしたいときは、 をもう一度押してください。

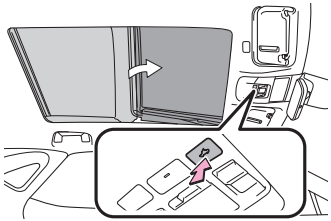


*2: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフをチルトアップする

を押します。*3

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

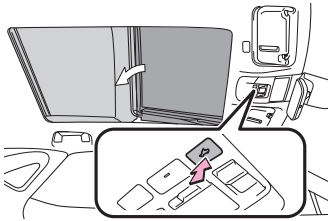


*3: 途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフをチルトダウンする

を押します。

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



電動サンシェードの開閉★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

電動サンシェードを開閉するときは、次のことを必ずお守りください。

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- 子どもには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ルーフの下側と電動サンシェードの隙間には指を入れないでください。
  手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

電動サンシェードを安全に開閉するための補助機能

⚠ 警告

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。
  また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。
  指などを挟まないように注意してください。

室内灯の使い方

室内灯の位置

⚠ 注意

■ランプのレンズの取りはずし

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備の位置

⚠ 警告

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

小物入れを使う

⚠ 警告

- 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、グローブボックスを必ず閉じてください。
グローブボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、助手席の乗員に開いたグローブボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カップホルダーを使う

⚠ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーの位置

⚠ 注意

ボトルホルダーを使用する場合は、次のことをお守りください。

- ボトルホルダーには、液体が入っている紙コップ／ガラス製のコップなどを収納しないでください。
  中身の液体がこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

コンソールボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、コンソールボックスを必ず閉じてください。
コンソールボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、乗員に開いたコンソールボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コインボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、コインボックスを必ず閉じてください。
コインボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、運転者に開いたコインボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内の快適性をさらに向上させるための装備

充電用 USB 端子の機能と働き

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- リヤコンソール：充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。
  端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットの機能と働き

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットの損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- アクセサリーソケットを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント（100W タイプ）の機能と働き

⚠ 注意

■ **アクセサリーコンセントの損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- アクセサリーコンセントを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ **バッテリーあがりの防止**

エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ **ヒューズ切れの防止**

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。
消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ **正常に使用できないおそれのある電気製品**

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の機能と働き

⚠ **警告**

■ **運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ **走行中の注意**

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。
非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ **電波がおよぼす影響**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。
ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ **故障ややけどを防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■ **故障やデータ破損の防止**

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード／ ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。
  また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。
  特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■**バッテリーあがりの防止**

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使う

⚠ 注意

アームレストに過度の負荷をかけないでください。破損の原因となります。

アシストグリップの機能と働き

⚠ 警告

乗降時やシートから立ち上がるときなどに、アシストグリップを使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックの位置

⚠ 警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

バニティミラーを使う

⚠ 注意

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

デッキフックを使う

⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフックを使う

⚠ 警告

ネットフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フックを使う

⚠ 注意

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。
買い物フックが損傷するおそれがあります。

デッキボード

デッキボードを開ける

⚠ 警告

デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出すおそれがあります。

トノボードを収納する

⚠ 警告

- トノボードの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるおそれがあります。

- トノボードの上には、子どもが乗ったりしないようにしてください。トノボードが破損するおそれがあります。

警告灯／表示灯

⚠ 警告

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類の見方（F SPORT 以外）

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンや構成部品への損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

計器類の見方（F SPORT）

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンや構成部品への損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ非装着車）

⚠ 警告

■ 運転中の使用

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ディスプレイの設定を変更するとき、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ装着車）

⚠ 警告

■運転中の使用

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ディスプレイの設定を変更するとき、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイの表示★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

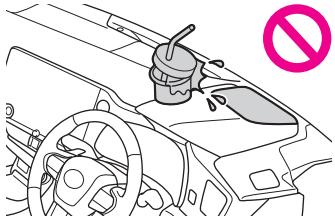
⚠ 警告

ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

次のことをお守りください。

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
  ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
  装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの設定を変更する

⚠ 警告

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
  調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

Lexus Safety System + のソフトウェアアップデート

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

Lexus Safety System + は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +

⚠ 警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に繋がる恐れがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき

- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

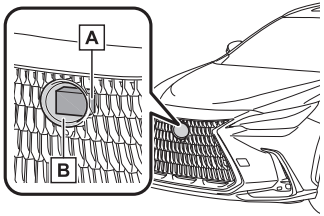
Lexus Safety System + で使用するセンサー

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく
  レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



A レーダー
B レーダー専用カバー

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける
- レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・ レーダーを脱着や交換したとき
・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

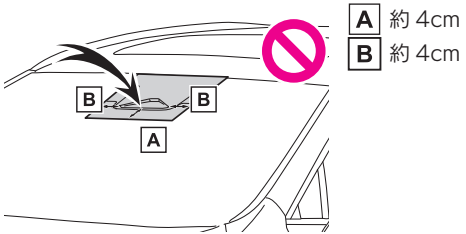
■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

運転を補助する装置の一覧

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。

無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける
| PCS（プリクラッシュセーフティ）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 安全にお使いいただくために：→ ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■ **プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ ※
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※

⚠ 警告

■ **プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキ作動後のブレーキ保持は、次のような状況では作動しません。状況に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
  - ・アクセルが踏まれている
  - ・交差点支援機能で停止している
  - ・急な坂道で停止している
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ **低速時加速抑制について**

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■ **緊急時操舵支援について**

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
  - ・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
  - ・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
  - ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する
| LTA（レーントレーシングアシスト）

⚠ 警告

■ **LTA をお使いになる前に**

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
  適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

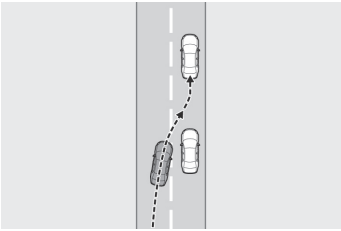
⚠ 警告

■ **機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- 先行車/周辺車が車線変更したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車 / 周辺車がふらついたとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車 / 周辺車が車線から逸脱したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車 / 周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車 / 周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき （ 移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります ）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

車線変更するときのハンドル操作を支援する★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LCA（レーンチェンジアシスト）

⚠ 警告

■LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。
  LCA は自動で運転する装置でもレーンチェンジ先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
  また、レーンチェンジしてはいけない車線（対向車線、路肩等）への LCA の使用はやめてください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■LCA を使用してはいけない状況

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき
- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

車線からのはみ出しを警告で防ぐ
| LDA(レーンディパーチャーアラート)

⚠ 警告

■LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、システムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ ※

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する

PDA(プロアクティブドライビングアシスト)

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。
  必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。(→ ※)
- プロアクティブドライビングアシストは、前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

⚠ 警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ ※
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき （レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。

本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■後側方レーダーセンサーの取り扱い

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

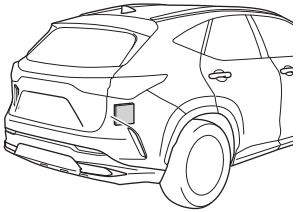
C3-001

ブラインドスポットモニターの役割

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

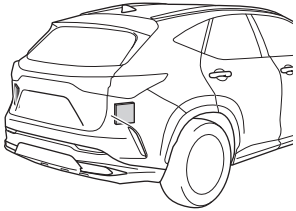
安心降車アシストの役割

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

安心降車アシストのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、安心降車アシスト機能が ON の状態でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの役割

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート／フォグランプ／フェンダーポール／無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造／分解／塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■ クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき

● レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

⚠ 警告

■ 洗車時の注意

● 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

● スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の役割

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCD（リヤカメラディテクション）の役割

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。
システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

● カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。

● カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。

● カメラを分解／改造／塗装しないでください。

● カメラにアクセサリー／ステッカーを付けないでください。

● リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。

● 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

● バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 上記の内容が守られないとき

● レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の機能

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にするとき

- 次のときは、PKSB（パーキングサポートポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
- 点検などで、シャシーローラー／シャシーダイナモ／フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶／トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン／応急用タイヤ／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

前後方静止物

⚠ 警告

■ 万一、踏切などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→ ※

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

⚠ 警告

■ 洗車時の注意

→ ※

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ ※

⚠ 警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→ ※

標識の見逃し防止をサポートする★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RSA (ロードサインアシスト)

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

■RSA を使用してはいけない状況

- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※

最適な車間距離を保って追従走行する
レーダークルーズコントロール

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - システムが正しく作動しないおそれのある状況：→ ※
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。
  このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ ※
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

一定の車速で走行する
クルーズコントロール

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ **クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- システムを OFF にする必要があるとき：→ ※

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる

ドライバー異常時対応システム

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。
  また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

⚠ 警告

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション）

急アクセル時加速抑制

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

※：WEB 掲載のデジタル取扱説明書をご覧ください。

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する

ブレーキオーバーライドシステムの役割

⚠ 警告

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進するおそれがあります。

⚠ 注意

運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

事故の衝撃から乗員を守る

シートベルトプリテンショナーの役割

⚠ 警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。
その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグの役割

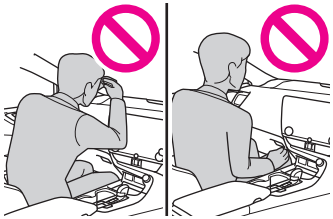
⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

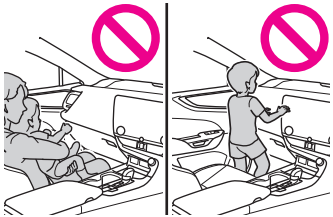
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



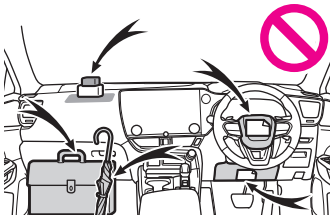
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



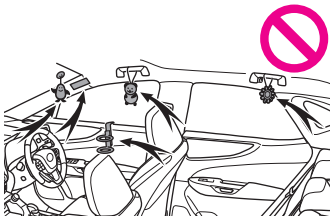
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。
  エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
  - ・ハンドル
  - ・インストルメントパネル
  - ・ダッシュボード
  - ・シート
  - ・シート表皮
  - ・フロントピラー
  - ・センターピラー
  - ・リヤピラー
  - ・ルーフサイドレール
  - ・フロントドアパネル
  - ・フロントドアトリム
  - ・フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
  - ・フロントフェンダー
  - ・フロントバンパー
  - ・車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
  - ・グリルガード
  - ・除雪装置
  - ・ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

衝突時の急加速抑制

⚠ 警告

■衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

ITS Connect の概要 *

*: If equipped

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知／案内／注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。

そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知／案内／注意喚起」をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）／出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

洗車

⚠ 警告

●洗車するときは、エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。
洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体／部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール／花粉／樹液が付着したとき
・鳥のふん／虫の死がいが付着したとき
・ばい煙／油煙／粉じん／鉄粉／化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり／泥などで激しくよごれたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

自動洗車機の使用

⚠ 注意

自動洗車機を使用するときは、ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

高圧洗浄機を使った洗車

⚠ 注意

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- 洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあります。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

バンパーの清掃

⚠ 警告

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM
- 後方車両への接近通報
- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- RCTA
- PKSB★

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランプの清掃

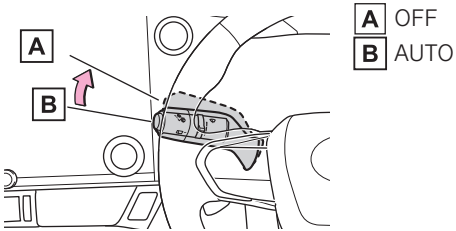
⚠ 注意

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

フロントウインドウガラスの清掃

⚠ 警告

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

室内を清掃する

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤

- 変色／しみ／塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - ・シート以外の部分：ベンジン／ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤／染色剤／漂白剤
  - ・シート部分：シンナー／ベンジン／アルコール／その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ／溶解／変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

■フロントウインドウガラス／リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー／洗剤／ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

本革部分のお手入れをする

⚠ 注意

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製／プラスチック製／ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

ボンネットを開ける

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開くおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ **ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
  ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片／ステッカー／粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ウォッシャー液を補充する

⚠ 警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターのお手入れ

エアコンフィルターを交換する

⚠ 注意

エアコンを使用するときは、次のことをお守りください。

- 必ずフィルターを装着してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください

タイヤのメンテナンス

⚠ 注意

段差や凹凸のある悪路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ／ホイール／車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの点検項目

⚠ 警告

■ **点検／交換時**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦になるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー／同一銘柄／同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ／バイアスベルテッドタイヤ／バイアスプライタイヤを混在使用しない

- サマータイヤ／オールシーズンタイヤ（マット＆スノータイヤ）／冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費／車両の安定性／制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

走行中に空気もれが起こったら走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤ空気圧警報システムのはたらき

空気圧バルブ／送信機の装着

⚠ 注意

■タイヤ、ホイール、空気圧バルブ／送信機、バルブキャップの修理／交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
  レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■タイヤパンク応急修理キットを使用したときは

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤの空気圧を設定する

⚠ 警告

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

タイヤ空気圧の点検

⚠ 警告

タイヤの性能を発揮するために適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷

- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

タイヤ空気圧の点検／調整をしたあとは、タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

タイヤの交換

工具／ジャッキの搭載位置

⚠ 警告

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下するおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換／タイヤチェーン取り付け／取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

タイヤを取りはずす

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

■ タイヤ交換時のパワーバックドアの設定

タイヤ交換をする際は、パワーバックドアの作動を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ジャッキはジャッキセット位置に正しくかけてください。

⚠ 警告

ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

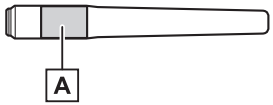
⚠ 警告

タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。
また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。

タイヤを取り付ける

⚠ 警告

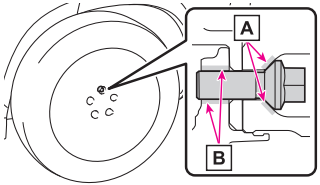
タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。
また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



⚠ 警告

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ちるおそれがあります。

- ホイールボルトとホイールの球面座部 A にオイルやグリースを塗らないでください。
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ B が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またホイールボルトがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。



- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールボルトを使用し、レクサス純正品以外のホイールボルトなどは使用しないでください。
- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げてください。

⚠ 警告

ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

⚠ 警告

- ジャッキや工具を使用したあとは走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
  また、約 1000km 走行したあとに、再度ホイールボルトを締め付けてゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

走行中にトラブルが発生したときの対応

発炎筒で他の運転手に知らせる

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱い

次のことを必ずお守りください。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車を緊急停止する

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

⚠ 警告

走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、エンジンスイッチを押してください。

水没／冠水したときの対処

⚠ 警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステムの働き

⚠ 注意

エンジンを始動する前に車両下をよく確認してください。地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯が点灯／点滅した

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

パワーステアリング警告灯が黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

⚠ 警告

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ランフラットタイヤ装着車：
  周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/h をこえない速度で走行してください。
- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。
- 急ハンドル／急ブレーキを避けてください。タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造／メーカー／銘柄／トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

室内灯やヘッドランプが暗くエンジンがかからない

バッテリーあがり

⚠ 警告

■バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

バッテリー端子をはずすときは

⚠ 警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車）

⚠ 警告

タイヤがパンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。
この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

タイヤパンク応急修理キット／工具の搭載位置

⚠ 警告

応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

⚠ 警告

■ 応急修理キットの取り扱いの注意

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
  パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液の取り扱い

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

パンクしたタイヤを応急修理する

⚠ 警告

応急修理するときは、次のことをお守りください。

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときの注意

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キット

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- ガソリンがかからないようにしてください。応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解／改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

⚠ 警告

次のことを確認ください。

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

⚠ 警告

速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 40 分以上連続で作動させないでください。応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

⚠ 警告

充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

⚠ 警告

補修液を均等に広げるための運転中は、次のことに注意してください。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

ランフラットタイヤがパンクしたときの注意事項（ランフラットタイヤ装着車）

⚠ 注意

■ タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■ 段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■ 液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

キーをなくした

⚠ 注意

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーを使ってドア／窓／ムーンルーフを操作できない

⚠ 注意

スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは、付属しているすべての電子キー（カードキー含む）をお持ちください。

電子キーの電池を交換する

⚠ 警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

メカニカルキーを使って操作する

⚠ 注意

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。
カードキーが破損するおそれがあります。

⚠ 警告

メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフを操作するときは、ドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する

⚠ 警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ **バッテリーの取り扱い**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱／ターミナル／その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

⚠ 注意

■ **ブースターケーブルの取り扱い**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

⚠ 注意

■ **ブースターケーブルの取り扱い**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

ドア開スイッチでドアを開けることができない

手動リリースハンドルを操作するには

⚠ 注意

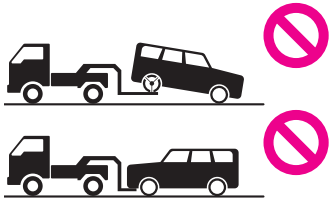
通常、手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

レッカー車を使用したけん引

FF（前輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

⚠ 警告

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



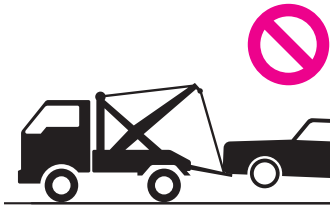
⚠ 注意

■ **長い下り坂でけん引するとき**

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ **レッカー車でけん引するとき**

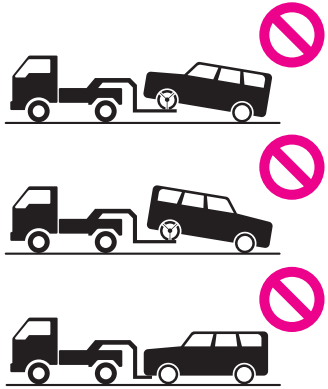
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



AWD（4 輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

⚠ 警告

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



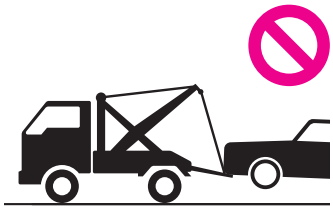
⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するとき

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用する

⚠ 注意

車両運搬車に車を固縛するときは、ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。
車両の損傷につながるおそれがあります。

他車を使用したけん引

⚠ 注意

■Stop & Strat システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ON にしてください。

他車にけん引してもらう

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください

- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- エンジンスイッチを OFF にする

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

- 他車にけん引してもらうときは、必ず前進方向でけん引してもらってください。
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

⚠ 警告

けん引フックを車両に取り付けるときは、指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- サスペンション部などにロープをかけない

⚠ 警告

他車にけん引してもらうときは、エンジンスイッチを OFF にしないでください。
パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

けん引してもらうときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

他車にけん引してもらうときは、速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す

⚠ 警告

- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないでください。
  車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
  スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

⚠ 注意

タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
トランスミッションやその他の部品が損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

オーバーヒートした

| 水温計がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示された

⚠ 警告

冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。
ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ／スカーフ／マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。
また、エンジンスイッチを OFF にしても数分間作動することがあります。

⚠ 警告

ボンネットを開ける際は、次のことをお守りください。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップや冷却水リザーバータンク、インタークーラーリザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

点灯しないライトがある

｜ヒューズの点検／交換をする

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

｜電球（バルブ）の交換

⚠ 警告

バルブを交換するときは、次のことに注意してください。

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

｜オートマチックトランスミッション

⚠ 注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

■ タイヤ／ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18 × 7 1/2 J	230 (2.3)	230 (2.3)
235/50R20 100V	20 × 7 1/2 J	230 (2.3)	230 (2.3)

ユーザーカスタマイズ機能概要

⚠ 警告

カスタマイズを行うときは、エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

カスタマイズを行うときは、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

知っておいていただきたいこと

安全にお使いいただくため

⚠ 警告

- 安全のため、運転中は運転者がシステムを操作しないでください。道路や交通への注意が不十分な場合、事故を引き起こす可能性があります。
- 運転中は、必ず交通規制を遵守し道路状況に注意してください。道路の交通標識が変更された場合、一方通行指示などの情報がルート案内に反映されない場合があります。

ディスプレイと操作スイッチ

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作をせず、停車させてから操作をしてください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

⚠ 注意

エンジン<ハイブリッドシステム>が停止した状態で長時間使用しないでください。補機バッテリーがあがるおそれがあります。

タッチスクリーンの操作

タッチスクリーン操作上の留意事項

⚠ 注意

- 画面保護のため、指を軽く画面にふれてタッチスクリーンを操作してください。
- 指以外のものでタッチスクリーンを操作しないでください。
- 画面の汚れは、メガネ用クリーニングクロスなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり、かたい布などでこすったりすると表面に傷がつくことがあります。
- ベンジンやアルカリ性溶液などを使用して画面を清掃しないでください。画面が損傷するおそれがあります。
- 条件によって画面表面が熱くなることがあります。長時間ふれ続けると低温やけどを起こす可能性があります。

オーディオシステムの ON/OFF と音量を調整する

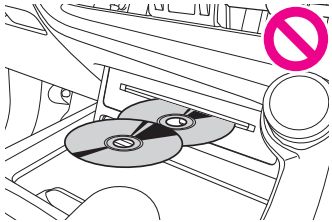
⚠ 注意

- エンジンがかかっていない状態<ハイブリッドシステムが作動していない状態>で、オーディオシステムを長時間使用しないでください。補機バッテリー があがるおそれがあります。
- 安全運転に支障がないように適度な音量でお聞きください。

ディスクを出し入れする *1

⚠ 注意

- ディスクを挿入するときは、2 枚以上重ねて挿入しないでください。ディスクが取り出せなくなったり、故障するおそれがあります。
- ディスク挿入口にディスク以外のものを入れないでください。故障するおそれがあります。



*1: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

USB 端子の接続

⚠ 注意

- 接続する機器の形状によっては、周辺部品と干渉し、本体もしくは接続機器が破損するおそれがあります。

- 接続中に機器を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。機器や端子が破損するおそれがあります。

ソフトウェア情報の確認や更新をする

ソフトウェアを更新する

⚠ 注意

- USB メモリーを使ってソフトウェア更新をする場合、インターネットに接続できる環境のパソコンと 4GB 以上の空き容量がある USB メモリーが必要です。お客様のパソコンの環境によっては通信料金が高額となりますのでご注意ください。
- ソフトウェア更新はお客様の責任において実行してください。
- ソフトウェア更新を行うと、前のバージョンにもどすことはできません。
- ソフトウェア更新で適用されるソフトはマルチメディアシステム専用です。その他の機器で使用しないでください。
- ソフトウェア更新の内容によっては一部の設定が初期化されることがあります。その場合はソフトウェア更新後、再度設定を行ってください。
- ソフトウェア更新中もマルチメディアシステムの操作は可能ですが、動作の遅延が発生する可能性があります。できるだけ操作しないようにしてください。
- ソフトウェア更新後、自動的にトヨタ自動車の配信サーバーに更新が完了したことを通知します。なお、トヨタ自動車は送信された情報をソフトウェア更新以外の目的には使用いたしません。また、お客様のご契約形態によっては通信料が発生する場合があります。

USB メモリーを使って更新する

⚠ 注意

ソフトウェア更新中は、USB メモリーを抜いたりしないでください。

走行支援の設定

⚠ 警告

走行支援設定の案内は、あくまでも補助機能です。案内を過信せず、常に道路標識／標示や道路状況に注意し、安全運転に心がけてください。

Bluetooth® 機器使用上の留意事項

⚠ 警告

- 携帯電話をハンズフリー電話で使用する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。
- 安全な場所に停車して電話をかけてください。運転中に電話がかかってきたときは、安全運転に留意し、通話は手短にしてください。

⚠ 注意

- Bluetooth®機器をマルチメディアシステムに近づけて使用しないでください。近づけすぎると、音質が劣化したり、接続状態が悪化することがあります。
- 携帯電話は車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに携帯電話が故障するおそれがあります。

⚠ 警告

- Bluetooth®通信用の車両側アンテナはマルチメディアシステム内に内蔵されています。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

Wi-Fi® 機器使用上の留意事項

⚠ 警告

- Wi-Fi® 通信用の車両側アンテナはマルチメディアシステムに内蔵されています。

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

Apple CarPlay/Android Auto 使用上の留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中にスマートフォン本体を操作しないでください。

⚠ 注意

- スマートフォンを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにスマートフォンが故障するおそれがあります。
- スマートフォンが接続されているときには、スマートフォンを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。スマートフォンまたは端子が損傷する可能性があります。
- USB 端子に異物を入れないでください。スマートフォンや端子が破損するおそれがあります。

TSPS サービスについて *1

TSPS（Traffic Signal Prediction Systems）を使用する

⚠ 警告

TSPS 運転支援機能はあくまでも補助機能です。案内を過信せず、常に道路標識・信号表示や道路状況に注意し、安全運転に心がけてください。

*1: 14インチディスプレイ装着車

光ビーコン走行情報のアップリンクの設定をする

⚠ 注意

- 初期状態では [ON] に設定されています。
- 本設定が [OFF] の場合、TSPS サービスは受けられません。

地図を更新する

パソコン（USB メモリー）で更新する

⚠ 注意

- ダウンロードした地図データのファイル名および拡張子を変更しないでください。
- 地図データの入っているフォルダー（diff）には、地図データ以外の情報を入れないでください。

ラジオ用アンテナの取り扱い

⚠ 注意

アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためるため使用しないでください。
リヤウインドウガラスのアンテナ線部に次のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。

- 金属を含有するウインドウフィルム
- その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

CD の再生についての留意事項 *1

⚠ 注意

- MP3/WMA/AAC 以外のファイルに「.mp3」/「.wma」/「.m4a」の拡張子をつけないでください。
- MP3/WMA/AAC 以外のファイルに「.mp3」/「.wma」/「.m4a」の拡張子をつけると、MP3/WMA/AAC ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

*1: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

DVD の再生についての留意事項 *1

⚠ 警告

- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）

- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。
- 会話シーンのときに音量調整を行う場合は音量に注意してください。DVD ビデオでは、迫力のある効果音を得るために、通常の会話シーンの音量を小さくして録音されているものがあります。このようなディスクで、会話シーンのときに音量調整を行うと、効果音のシーンや DVD ビデオ以外のモードにしたとき、音量が大きすぎることがあります。音量が大きすぎると運転のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*1: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

地上デジタルテレビの視聴についての留意事項

⚠ 警告

- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）
- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

地上デジタルテレビ用アンテナの取り扱い

⚠ 注意

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナをいためますので使用しないでください。
- フロントウインドウガラスおよびリヤウインドウガラスのアンテナ線部に以下のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が発生するおそれがあります。

・ 金属を含有するウインドウフィルム
・ その他の金属物（レクサス純正品以外のアンテナなど）

USB メモリーの再生についての留意事項

⚠ 警告

- 安全のため、運転者は運転中に USB メモリーを操作しないでください。
- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）
- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

⚠ 注意

- USB メモリーを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに USB メモリーが故障するおそれがあります。
- 接続中に USB メモリーを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。USB メモリーや端子が破損するおそれがあります。

⚠ 注意

ファイルに間違った拡張子をつけないでください。ファイルの中身と一致しない拡張子をファイルにつけると、誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。
間違いの例：

- MP3 ではないファイルに、「.mp3」の拡張子をつける
- WMA ではないファイルに、「.wma」の拡張子をつける

iPod/iPhone の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPod/iPhone を操作しないでください。

⚠ 注意

- iPod/iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPod/iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPod/iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。iPod/iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Apple CarPlay の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に iPhone を操作しないでください。

⚠ 注意

- iPhone を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに iPhone が故障するおそれがあります。
- 接続中に iPhone を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。iPhone や端子が破損するおそれがあります。

Android Auto の再生についての留意事項

⚠ 警告

安全のため、運転者は運転中に Android デバイスを操作しないでください。

⚠ 注意

- Android デバイスを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに Android デバイスが故障するおそれがあります。
- 接続中に Android デバイスを押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。Android デバイスや端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。Android デバイスや端子が破損するおそれがあります。

Bluetooth® オーディオの再生についての留意事項

⚠ 警告

- 安全のため、運転者は運転中にポータブル機本体の操作をしないでください。
- Bluetooth®通信用の車両側アンテナはマルチメディアシステム内に内蔵されています。
  植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。

⚠ 注意

- ポータブル機を車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにポータブル機が故障するおそれがあります。
- 接続中にポータブル機を押さえたり、不必要な圧力を加えたりしないでください。ポータブル機や端子が破損するおそれがあります。
- 端子に異物を入れないでください。ポータブル機や端子が破損するおそれがあります。
- ポータブル機をマルチメディアシステムに近づけて使用しないでください。近づけすぎると、音質が劣化したり、接続状態が悪化する場合があります。

Miracast® の再生についての留意事項

⚠ 警告

- 安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P に入れたときに映像を視聴できます。（走行中は音声のみを再生します）
- パーキングブレーキがかかっていなくても、ブレーキホールドの作動中、またはクルーズコントロール機能による完全停車状態になっていれば動画を視聴できるように設定できます。

●運転中はスマートフォンやタブレットを接続したり、操作をしないでください。

⚠ 注意

スマートフォンまたはタブレットを車室内に放置しないでください。車室内が高温のときにスマートフォンまたはタブレットが故障するおそれがあります。

ハンズフリー電話についての留意事項

⚠ 警告

●安全のため、運転者は運転中に携帯電話本体を操作しないでください。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医師や医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

携帯電話は車室内に放置しないでください。車室内が高温のときに携帯電話が故障するおそれがあります。

通話音声の留意事項

⚠ 注意

マイクにふれたり、先の尖ったものを入れないでください。故障の原因となります。

データ通信に関する留意事項

安全にご利用するため注意すること

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に極力操作（音声操作も含む）をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

通信モジュール（DCM）について

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、G-Link をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

G-Link を解約する

マルチメディアシステムから解約する

⚠ 注意

●マルチメディアシステムに保存した情報は、マルチメディアシステムで解約したときのみ消去できます。

●お客様の大切な情報を保護するため、お車を手放すときは、マルチメディアシステムで解約手続きおよび初期化を必ず行ってください。

ヘルプネットについて

⚠ 注意

●ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。

各部の名称とはたらき

表示灯について

⚠ 警告

●表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにレクサス販売店にご相談ください。

・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。

・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。

・携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。

・エンジン<ハイブリッドシステム>始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

安全のために

⚠ 警告

●安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。

●マルチメディアシステムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

●以下のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア外で使用している

・関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、ディスプレイ、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している

・G-Link 利用契約が未契約、または契約期限が切れている

・手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

●緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 緊急通報後に救援を待つ間は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- G-Link利用契約を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、レクサス販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

- マルチメディアシステム内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとすると、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにレクサス販売店にご相談ください。
- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、レクサス販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：-20 ℃～＋ 60 ℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

⚠ 警告

- 以下のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
・ 通信が始まらない。
・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
・ 通話できない。
- 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

緊急通報をする

| エアバッグ作動による自動通報

⚠ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

⚠ 警告

緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

ボタン操作による手動通報

⚠ 警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

⚠ 警告

- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
・ 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
・ 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
・ 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

保守点検をする

自動保守点検について

⚠ 注意

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にエンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、レクサス販売店にご相談ください。

手動保守点検を実施する

⚠ 警告

手動保守点検の途中で、エンジンスイッチ<パワースイッチ>を OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやり直してください。

⚠ 警告

手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

- 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。
- 手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはエンジンスイッチ＜パワースイッチ＞を一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやり直してください。携帯電話サービスエリア内でやり直しても接続されないときには、レクサス販売店にご相談ください。

表示灯について

⚠ 警告

- 表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにレクサス販売店にご相談ください。
  - ・エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。
  - ・エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。
  - ・携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。
  - ・エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。
- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

故障とお考えになる前に

⚠ 警告

- 緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

Web ブラウザ機能（インターネット）について *1

⚠ 警告

安全上の配慮から車を完全に停止し、パーキングブレーキをかける、またはシフトポジションを P にいれたときのみ Web サイトをご覧になることができます。（走行中は音声だけになります。）

*1: 14インチディスプレイ装着車

バックガイド＆サイドモニターの機能とはたらき

⚠ 警告

- バックガイド＆サイドモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

バックガイドモニターについて

| ガイド画面を表示する

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

⚠ 警告

後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

サイドビューについて

ガイド画面を表示する

⚠ 警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

表示範囲の切りかえ

⚠ 警告

●拡大表示時は、サイドモニターの映像から障害物が見えなくなっても、車両が障害物を通り過ぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すことで小回りすることになり、障害物に接触する可能性があります。

バックガイド＆サイドモニターの注意点

運転時の注意事項

⚠ 警告

●バックガイド＆サイドモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。

●画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周囲の安全を直接確認してください。

●乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

●次のような状況では、バックガイド＆サイドモニターを使用しないでください。

・雪道、凍結した道などのすべりやすい路面
・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
・フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
・カーブや坂道など平坦やまっすぐではない道路
・標準タイヤと異なるサイズのタイヤに交換しているとき
・サスペンションを改造しているとき

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれたりすることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●タイヤサイズを変更した場合、画面に表示されるガイド線の位置に誤差が生じることがあります。

⚠ 注意

●カメラが正しく作動せず、画面が次のように表示されることがあります。

・シフトポジションを R にしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
・シフトポジションを R にしたときに、カメラ映像に切りかわらない
・カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

カメラのお手入れ方法

⚠ 注意

- バックガイド＆サイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のことにご注意ください。
  - カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - カメラ部は防水構造となっています。取りはずし、分解、改造をしないでください。
  - カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
  - カメラのカバーは樹脂です。有機溶剤、ボデーワックス、油膜取り剤、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
  - 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

- ノズル部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ノズルの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

パーキングアシストライト

⚠ 注意

- バックガイド＆サイドモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。
  - ライト部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ライトの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - ライト部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
  - ライト部を洗うときは、大量の水でライトの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でライト部をふき取ってください。
  - ライトのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
  - 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
  - 洗車時に高圧洗浄機でライトやライト周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ライト部をぶつけたときは、ライトの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

パノラミックビューモニターの機能とはたらき

⚠ 警告

- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

シフトポジションが D、N のときの表示モード

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、FCTA（フロントクロストラフィックアラート）の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

シフトポジションが R のときの表示モード

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- クリアランスソナー、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、RCD（リヤカメラディテクション）、移動物警報の表示は、カメラ映像に重畳して表示しているため、周囲の明るさや色などによっては見えにくい場合があります。

ガイド線表示モードの切りかえ

⚠ 警告

- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、できるだけ曲り角やカーブなどがなく、渋滞の少ない道路を前進で約５分間以上走行してください。それでも直らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

床下透過映像を表示する

⚠ 警告

- 乗車人数、積載量、路面の勾配、路面状況、周囲の明るさ、オプションの装備、タイヤの履きかえなどにより、タイヤ形状線や車両形状目安線と実際の車両位置がずれる場合があります。必ず周囲の安全を確認しながら運転してください。
- 表示される映像は、撮影された過去に撮影された映像です。そのため、撮影後に障害物が動くなど、床下透過映像表示と実際の状況とが必ずしも一致しない場合があります。

パノラミックビューモニターの注意点

⚠ 警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲はかぎられています。画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・フロントドア、バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない道路
  - ・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
  - ・サスペンションを改造しているとき
  - ・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像がうすれることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

⚠ 注意

- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解した上で使用してください。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに明暗ができる場合があります。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビュー、ワイドバックビュー、サイドビューに表示されている立体物が、シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- シースルービュー、ムービングビュー、パノラミックビュー、サイドクリアランスビュー、コーナリングビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置関係と異なる場合があります。
- カメラが正しく作動せず、画面が次のように表示されることがあります。

・シフトポジションをＲにしたときに、画面の一部、もしくはすべてが黒映像で表示される
・シフトポジションをＲにしたときに、カメラ映像に切りかわらない
・カメラ映像にガイド線などが表示されず、着目マークや注意文が表示される

カメラのお手入れ方法

⚠ 注意

- パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっています。取りはずし、分解、改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂です。有機溶剤・ボデーワックス、油膜取り剤、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

パーキングアシストライト

⚠ 注意

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。
・ライト部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。ライトの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・ライト部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・ライト部を洗うときは、大量の水でライトの汚れを流したあと、水で湿らせた柔らかい布でライト部をふき取ってください。
・ライトのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でライトやライト周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
●ライト部をぶつけたときは、ライトの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

画面と実際の立体物との誤差

⚠ 警告

クリアランスソナーの表示が赤色のときは、必ず直接確認して、それ以上進まないでください。車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ETC サービスについて

ETC を利用する前に

⚠ 警告

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差し、および ETC2.0 ユニットの操作を極力しないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⚠ 注意

●ETC2.0 ユニットを用いたサービスには、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。
●路側無線装置との通信の妨げにならないよう、ETC アンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています。）の上方には物を置かないでください。
●ETC アンテナの近くに電波を発する電子機器を設置しないでください。電波干渉により、無線通信が正常に行われず、開閉バーが開かない、料金決済サービスが正しく受けられないなどの原因となる可能性があります。

＜干渉の可能性がある主な機器＞
・Wi-Fi® を搭載した機器（モバイルルータ、携帯電話など）
・レクサス純正品以外の無線機器

＜干渉が発生した場合の対処＞
・ETC アンテナからできるだけ距離を離し設置するか、干渉する機器を取りはずしてください。
・Wi-Fi® を搭載した機器は、2.4GHz ワイヤレスネットワークを選択してください。（可能であれば）

●フロントガラスのよごれや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。
●車両 1 台に対して複数の ETC ユニットまたは ETC2.0 ユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

⚠ 注意

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- 変形、または破損した ETC カードは使用しないでください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってある ETC カードは使用しないでください。
- ETC カードの金属接点部に手で触ったり汚れた財布などに保管しないでください。
- 金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。

⚠ 注意

- ETC カードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC カードの有効期限案内は、補助手段として使用してください。ETC を使用する前は、ETC カードに記載されている有効期限を確認してください。
- ETC カード接点に汚れが付着していないかを確認してください。汚れが付着していると、エラーが発生したり、開閉バーが開かなくなる恐れがあります。ETC カードは汚れの付きにくい場所に保管するとともに、ETC 接点部を定期的にクリーニングしてください。
- ETC カードはエンジン<ハイブリッドシステム>始動後に挿入してください。エンジン<ハイブリッドシステム>始動前に挿入されていると ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

⚠ 注意

- ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC2.0 ユニットに挿入されていることと、ETC2.0 ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- ETC2.0 ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前で ETC カードを挿入すると、開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ETC ゲート手前、ETC ゲート、高速道路を走行中、ETC カードを抜いたり挿したりしないでください。ETC カード内のデータが破損したり、正しく料金清算が行われなくなる恐れがあります。

ETC2.0 ユニットの使い方

ETC2.0 ユニットについて

⚠ 注意

- ETC2.0 ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC2.0 ユニットが故障するおそれがあります。
- ETC2.0 ユニットに衝撃を与えないでください。ETC2.0 ユニットが、故障・破損するおそれがあります。
- ぬれた手で ETC2.0 ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC2.0 ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。また、付着した液体の成分によっては、ETC2.0 ユニットが変形・変色・故障する場合があります。
- 汚れたときは、柔らかい乾いた布でよごれをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどの薬品は絶対に使用しないでください。ETC2.0 ユニットが変形・変色・故障する場合があります。

ETC カードを挿入する

⚠ 注意

- 緑ランプが点灯した場合でも、解約済み、または有効期限が切れている、またはカード会社が使用無効とした ETC カードを使用した場合、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かないことがあります。
- 料金所のカードリーダでは正しく認証されないのに緑ランプが点灯する場合がありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。このようなときは、カード会社にカードの再発行を申し出てください。
- 緑ランプが点滅中は ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

⚠ 注意

- GPS の受信状態により、ごく稀に誤って有効期限切れ通知をすることがありますが、ETC2.0 ユニットの故障ではありません。誤った通知が継続する場合は、レクサス販売店で点検を受けて相談してください。
- ナビゲーションシステムを補機バッテリーターミナルから脱着したあとに起動した場合、GPS 情報受信後、数分間は有効期限切れ通知されないことがあります。

ETC カードを抜く

⚠ 注意

ETC カードが取り出せなくなった場合。無理に取り出さず、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

高速道路をご利用中の場合は、出口料金所での通行料金のお支払いは、係員のいる車線（「一般」または「ETC/ 一般」）で、いったん停車して、ETC カードを係員にお渡しください。料金精算機のある車線では、「係員呼出ボタン」を押して係員を呼び出してください。

ETC ゲート（入口・出口／精算用）の通過について

⚠ 警告

運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。ETC2.0 ユニットやナビゲーションシステムでは、エラーが案内されない場合があります。

利用履歴を確認する

⚠ 警告

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるなど、ETC 車線に設置されている開閉バーが開かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オーディオシステムで使用できるメディア／データについての情報

使用できるメディアについての情報

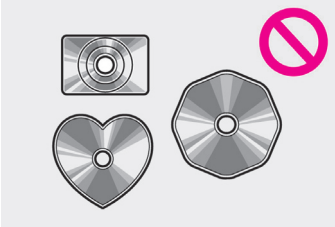
⚠ 警告

CD/DVD プレーヤーは、目に見えないレーザー光線を使用しています。プレーヤーを正しく操作してください。

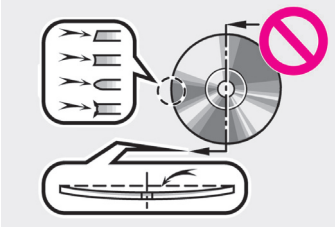
⚠ 注意

- オーディオシステムに飲み物をこぼさないように注意してください。
- ディスクには指紋、汚れ、傷などをつけないように取り扱ってください。
- ディスクを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持つか、両端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。
- ディスクの汚れは、プラスチックレンズ用メガネふきなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷がつくことがあります。また、レコードスプレー／帯電防止剤／アルコール／ベンジン／シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ディスクが損傷し、使用できなくなるおそれがあります。
- ディスク取り出しスイッチを押して、ディスクが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ディスクがそるなど変形し、使用できなくなるおそれがあります。
- ディスクは直射日光を避けて保管してください。ディスクがそるなど変形し、使用できなくなるおそれがあります。
- DualDisc は使用しないでください。機器が故障するおそれがあります。
- レンズクリーナーは使用しないでください。プレーヤーのピックアップ部が故障するおそれがあります。

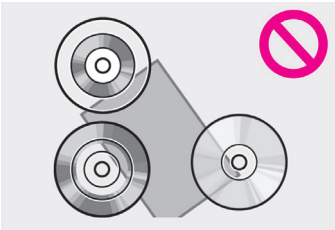
● 直径 12cm の円形以外のディスクは使用しないでください。機器が故障するおそれがあります。



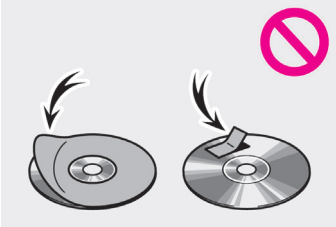
● 低品質または変形したディスクは使用しないでください。機器が故障するおそれがあります。



● 記録部分に透明または半透明部分があるディスクは使用しないでください。ディスクの出し入れができなくなったり、再生ができなくなるおそれがあります。



● セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどが貼ってあるディスクや、はがしたあとのあるディスクは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ディスクが取り出せなくなるなど、機器が故障するおそれがあります。



● 保護リング付きのディスクは使用しないでください。プレーヤーが損傷したり、ディスクが取り出せなくなるなど、機器が故障するおそれがあります。

● プリンタブルディスク（ラベル印刷面に対応したディスク）は使用しないでください。ディスクが取り出せなくなるなど、機器が故障するおそれがあります。

認証・商標についての情報

通信モジュール（DCM）についての情報

● 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。

● 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ETC2.0 ユニットについての情報

ETC2.0 ユニットは電波法の基準に適合しています。製品上の記載を削除しないでください。また、ETC2.0 ユニットを分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

セJ-1

M78441
01999-78441
ZC-2022年6月22日
2021年10月 7 日初版
2022年6月30日 2版
NX350 / NX250
ユーザーガイド